

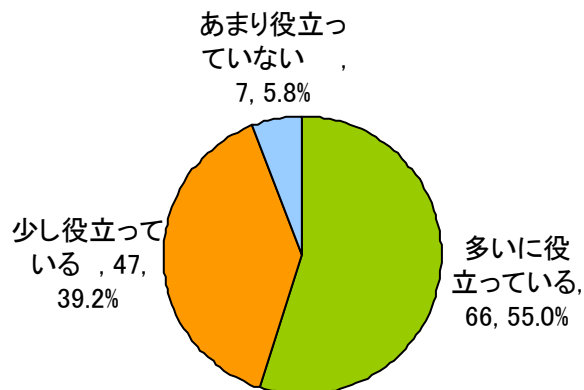
【平成 23 年度卒業生アンケートより】

平成 23 年 3 月（東日本大震災直後）に本学通信教育部を卒業された 278 名を対象にアンケート調査を実施しました。7 月 30 日現在 121 名（回収率 43.5%）の方からいただいた回答の集計結果の概要は下記のとおりです。卒業されるまでに「どのように学習に取り組まれたのか」等、学習方法を中心にご紹介します。是非これからの学習の参考にさせていただきます。

【学習全般について】

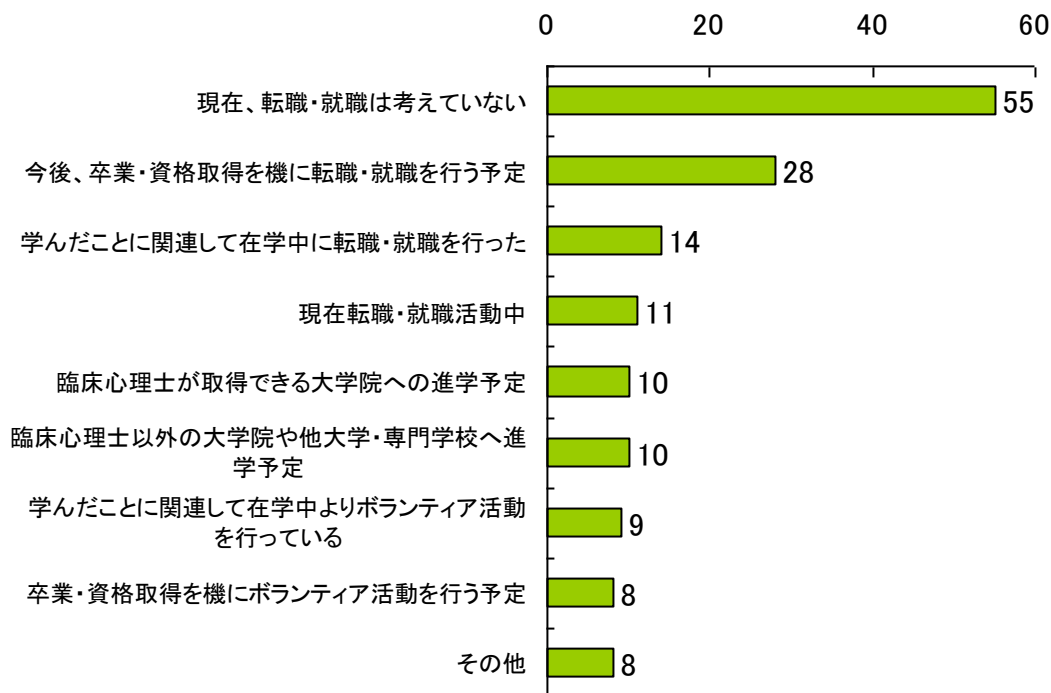
問 1 通信教育部での学習は、職場や家庭などの日常生活で役立っているか

N（回答の総数）=120

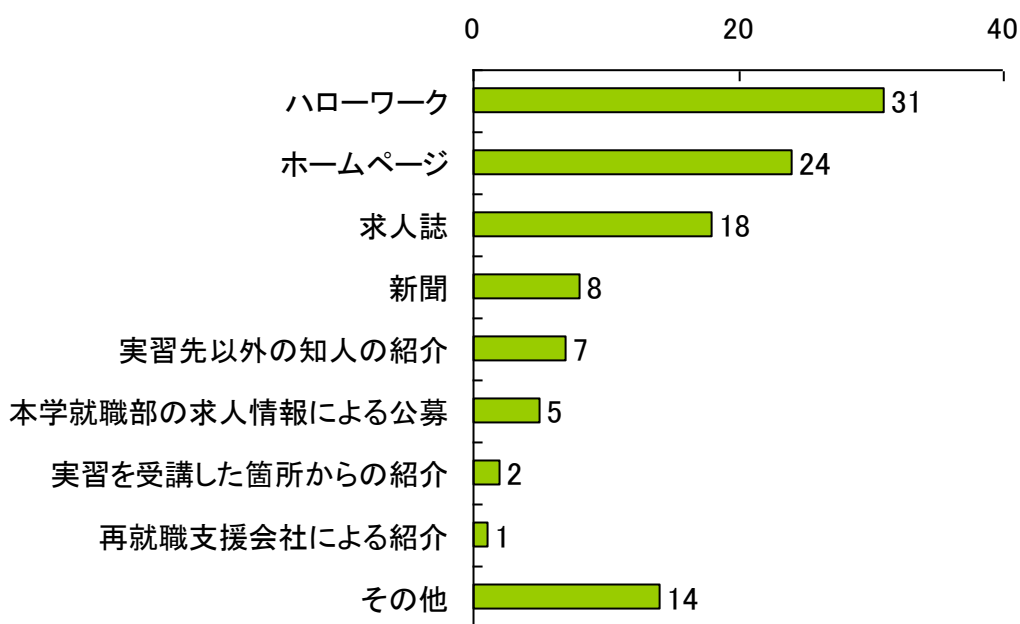


注：回答項目・実数・%（以下の円グラフも同様）

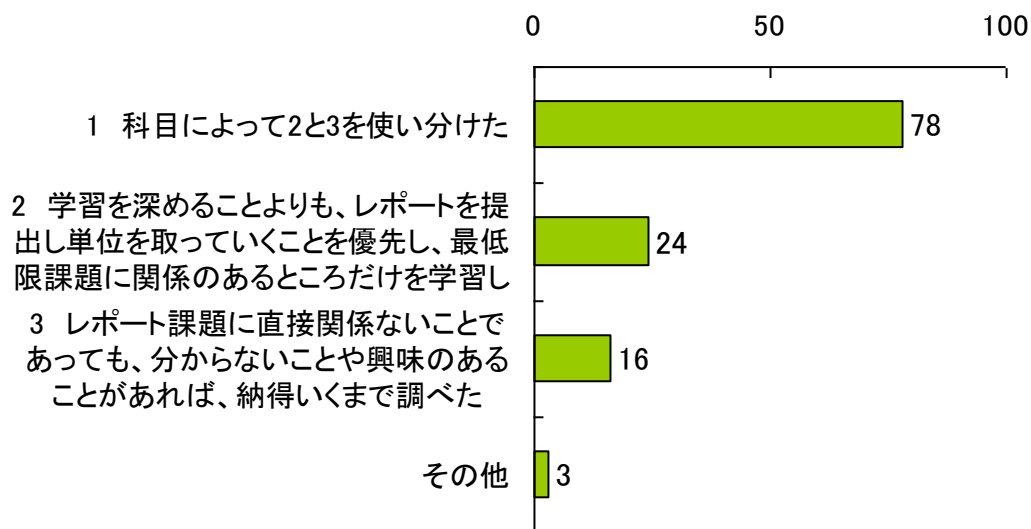
問 2 在学中・卒業後「卒業・資格・学んだこと」をいかして転職・就職・進学を行ったか（予定も含む） N =153（延べ）



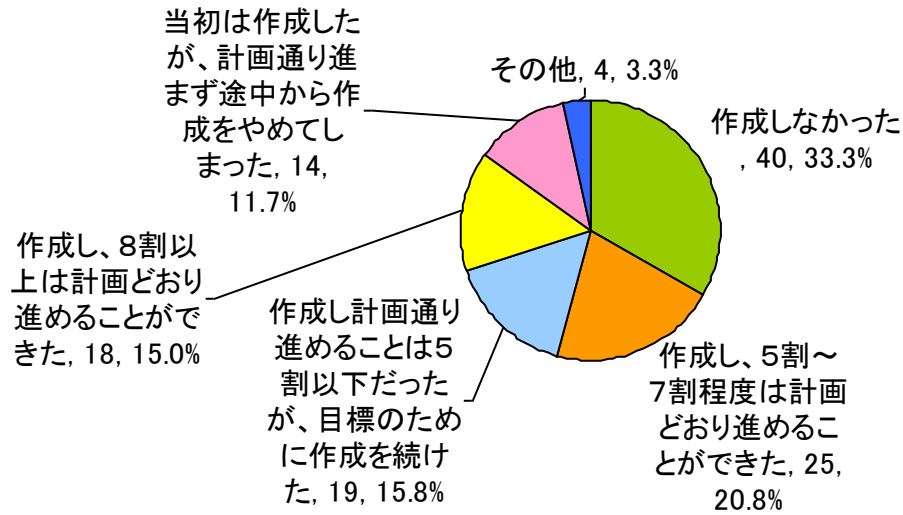
問3 転職・就職活動を行った（または行う予定）方で転職・就職先の情報はどのような方法で得たか（得る予定ですか） N=110（延べ）



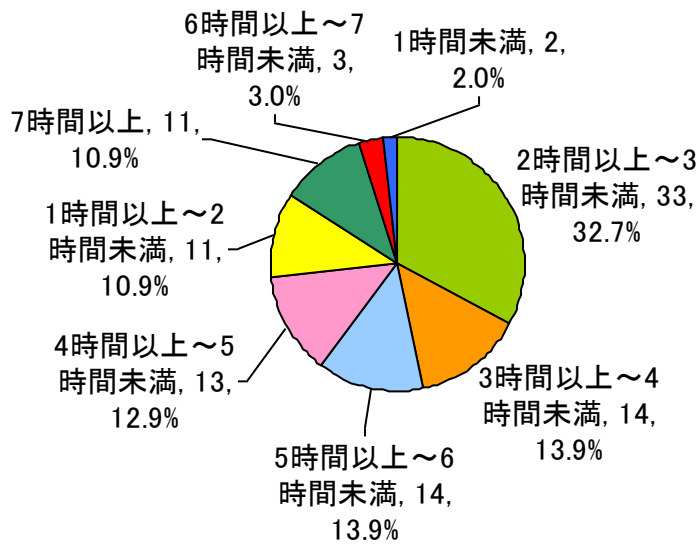
問4 学習に対してどのように取り組んだか N=121



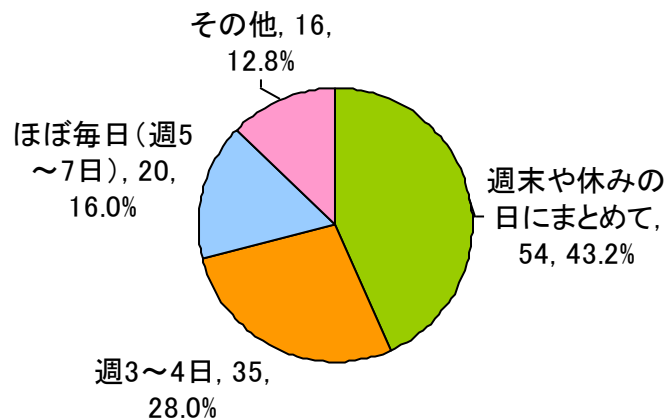
問5 学習計画を作成・活用したか N=120



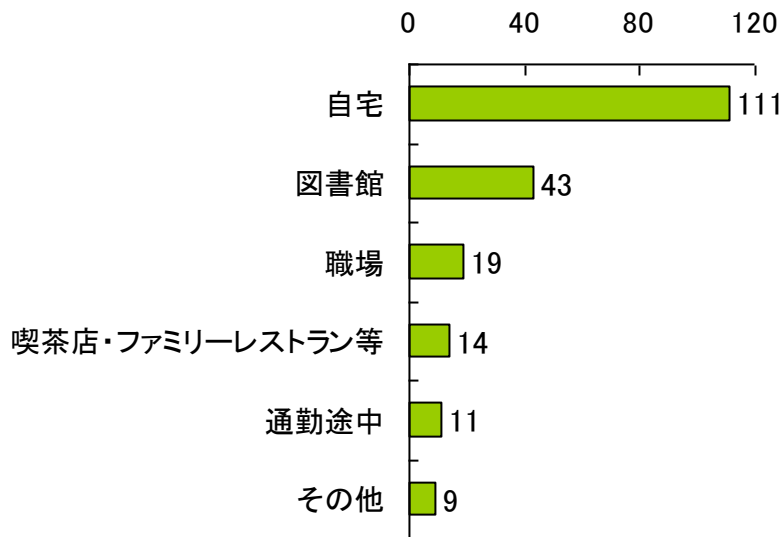
問6 1回の学習にかける時間 N=101 (延べ)



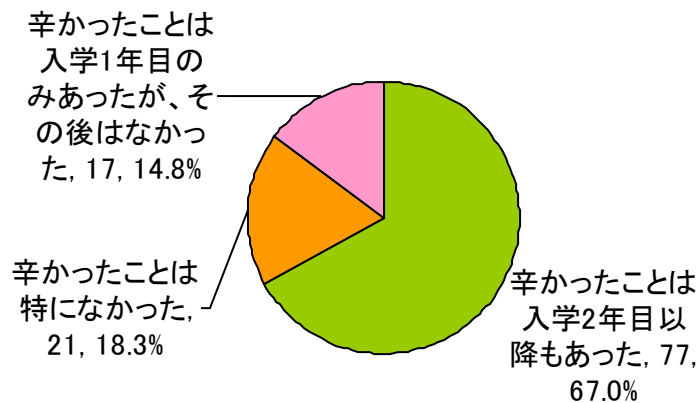
問7 学習の頻度 N=125 (延べ)



問8 普段どこで学習したか N=207 (延べ)



問9 学習をしていて辛かったことはあったか N=98



問10 学習をして辛かった内容 (抜粋)

- ・最初の三年ぐらいはほとんど学習に手をつけず、先の見えない学習が嫌になった。しかし、四年目以降レポートを出し始め。レポートが優で返ってきた時とてもうれしく徐々に出し始めた。
- ・レポートを再提出したとき。具体的にもっと理解したいと思い、さらに勉強したがどうしても理解できなかったとき。すぐにスクーリングに出られなかったため、一人で学習するのは辛いので同じ境遇の友人にもっと出会って相談できればいいと思う。
- ・入学して数ヶ月は学習システム、レポートの書き方がまだよく把握出来ずに時間だけが過ぎた。何から手をつけていいのかわからなかった。
- ・レポート課題の内容が、よくわからなかった。何が問われているのか納得できるまで手が見つかなかった。

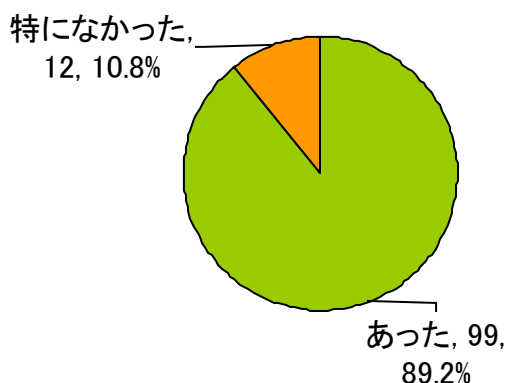
問11 学習をしていて辛かったことをどのように対処・克服したか（抜粋）

- ・通信教育部に電話した。まずは、「演習A」の受講条件を満たすことから始めてくださいというアドバイスをいただき、そこから学習を始めた。
- ・学習方法を知るため「レポート学習会」に出席したり、テキストを何度も読んだり、スクーリングで大切なポイントをつかむことができた。
- ・スクーリング時のOB・OGの方のアドバイスや職員の方によるレポートの書き方アドバイスが参考になった。

問12 学習をしていて辛かったことをどうすれば対処・回避できたと思うか（抜粋）

- ・二年間の在学中、通信教育部には20回以上は電話をしたと思う。わからないことがあればすぐに問い合わせるといふ姿勢が結果的にはよかったと思う。
- ・卒業された方や先生等にレポートの書き方でわからない部分を気軽に質問できたらよかったと思った。
- ・初年度、レポートの書き方がよくつかめず、スクーリングに繰り返し出席する中で、情報が少しずつ教授より伝えられ、対処できる様になったが、レポートの書き方のコツを最初冊子などにまとめて配布されれば、スタートが遅れずにすんだと思う。
- ・レポートをいくつか書いていくことで少しずつ学習ペースがつかめていった（レポートをとにかく「書く」「数をこなす」ことでしか克服できないと感じた）。

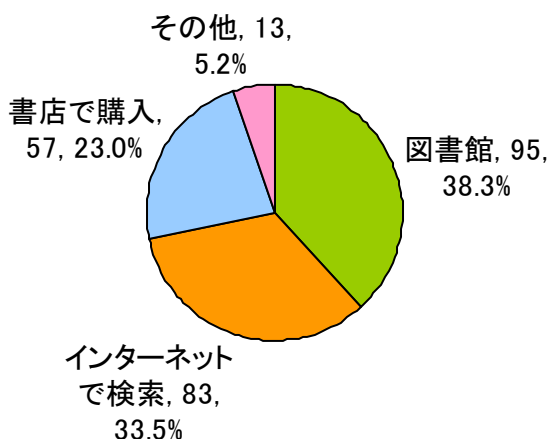
問13 学習をして楽しかったことはあったか N=111



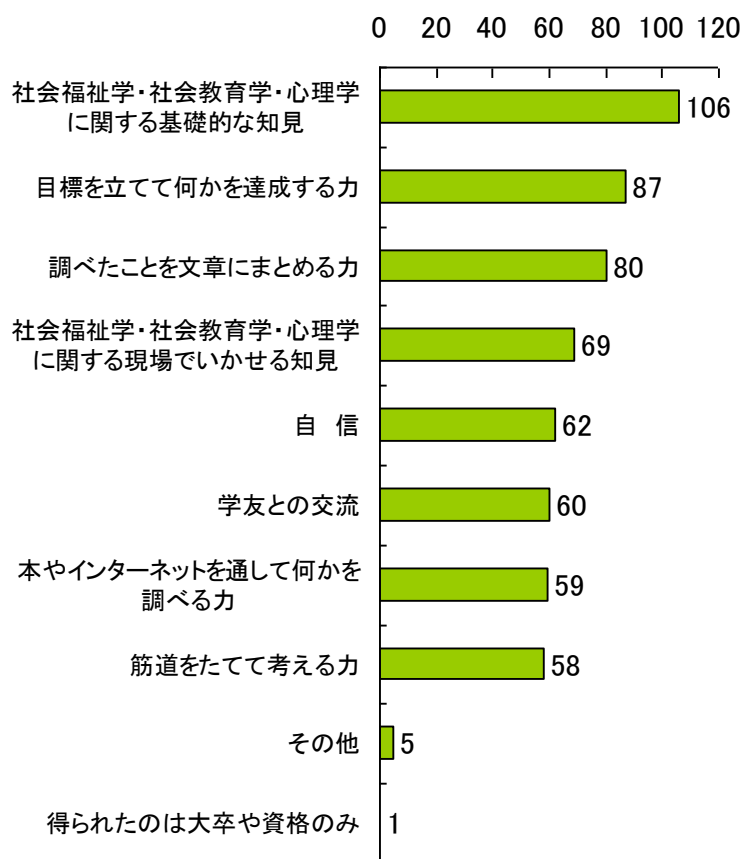
- ・学習をして楽しかったこと（抜粋）
- ・新しい知識を得ることは、それだけで楽しいものがあった。これまで自分の中に疑問に思っていたことなどがクリアになったこと、「福祉」という人によって価値の違う分野について、意見を交換しあう場面があったこと。とても刺激的でした。
- ・苦勞して提出したレポートが「優」の評価を頂いたとき、とてもうれしかった。その評価を受けて次のレポートに取り組むことができた。
- ・今まで自分なりに思い込んでいたことが、学びの中で確認できたり、そうでなかったのだと気付かされたとき。20代の大学時代と60近くなつての大学時代、人生において二度も学生生活を送れることが楽しかった。新しい知識を得ることはワクワクするものだと感じたとき。
- ・知識が増え、社会のさまざまな事象に対して多角的にとらえることができるようになったことが面白かった。
- ・スクーリングでは多くの先生の話を受講して、知らない分野の多くのことを知ることになり、知ること

がとても嬉しいものでした。また、多くの学生とも交流が得られ刺激をうけました。

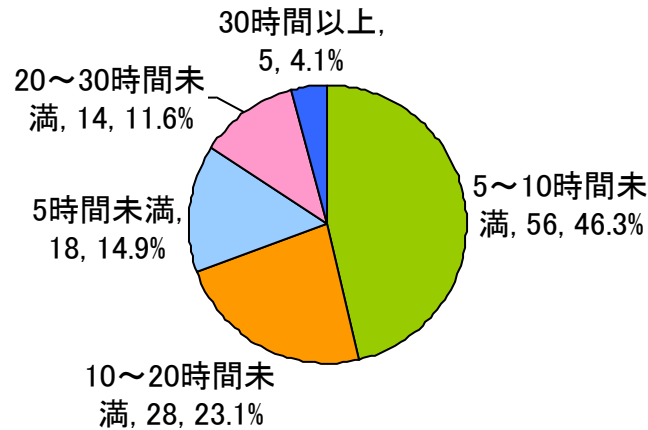
問 14 テキスト以外に参考文献（資料）を利用した際の入手方法 N=248（延べ）



問 15 通信教育部の学習を通じて何が得られたか N=587（延べ）



問16 1単位分(1課題)のレポート作成に要した時間 N=121



問17 レポートを書くのに特に苦勞した科目があれば、その科目名とどのような点で苦勞したか(抜粋)

- ・社会福祉原論(4単位め)…自分の中に福祉観をしっかりと考え、持っていないとなかなか書き上げることが難しい課題であった。
- ・社会福祉原論4単位目…自分の考えがなかなかまとめられずたくさん参考文献(スクーリング時に先生から紹介を受けたもの)を読んだ。
- ・社会福祉原論、社会福祉援助技術A・B…自分の意見を文章化するのが難しかったです。なんとなく自分の中にある考えや思いを、簡潔に文章で相手に伝えるにはどのようにしたらいいのかという点で苦勞しました。
- ・社会福祉原論がとても苦勞した。アドバイスを読んでも教科書のどこを勉強すればよいか理解しづらかった。
- ・社会調査の基礎…課題(レポート)を記入するために必要な情報が教科書になく、かつ、図書館などにも参考図書がなくまとめるのに苦勞した。
- ・専門科目であればまだわかるが、「現代社会を見る眼」「生命の科学」「福祉法学」などスクーリングを仙台まで行って受講してもさっぱり分からず困りました(高校時代遊んだつけでしょうか)。
- ・福祉法学…具体的判例を見つけて書くこと、判例を読み理解することが大変だったように思う。
- ・社会福祉援助技術演習B…教科書を一通り、相談援助について学ぶが、実際、現場実習に行くと、違うということを知った。
- ・社会病理学にとりくんだが、結局うまくまとまらず、提出しないことにした(難しかった)
- ・どの科目も苦勞して提出した。特に、社会福祉援助技術論はソーシャルワーカーとしての経験がない私にとっては、理解することが大変だった。
- ・精神保健福祉論Ⅰ・Ⅱ…レポートに必ず記述すべき項目が多く、2000字に収めることに苦勞した。
- ・精神保健福祉論…論文の書き方の定型が決まっており、そこから少しでもずれると再提出となった。
- ・精神保健福祉論…課題に対する回答に対し、教授のコメントの意味がわからず、何度も再提出になったこと。
- ・精神保健福祉論Ⅰ・Ⅱ…そのつど小出しに課題を出され何度も返された。
- ・精神保健福祉論Ⅰ・Ⅱ…最初の頃でレポートの書き方もわからない時期、評価が厳しくやる気が失せた。
- ・精神科リハビリテーション学…先生の求める内容をなかなかまとめることができなかった。
- ・精神科リハビリテーション学…レポート4単位全て再提出となり、自信を失い、再提出するのに2年経過

してしまいました。

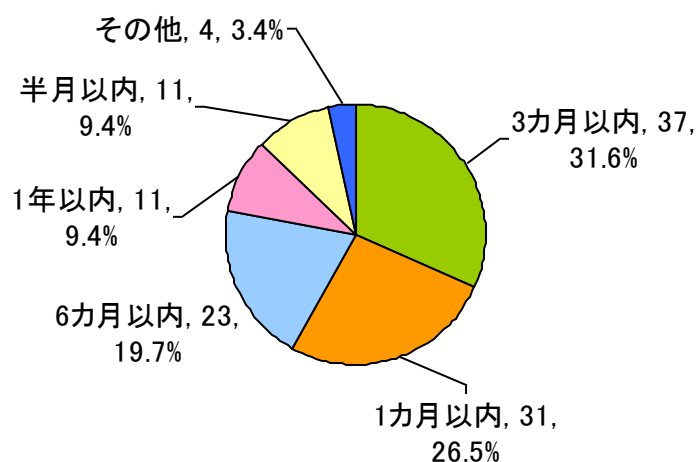
- ・精神保健福祉援助各論…答えが分からなかった。
- ・心理学研究法「レポートは何からでも自由に書いて」ということだったが、これは不向き。初めてで、これを選択したのはミスだった。あとになってよくわかってからもう一度挑戦したいと思ったが、「可」判定だったので、それもできず悔しい思いをした。
- ・心理学研究法。求めているもののイメージが理解できなかった。その他、全般的に参考文献、引用文献の注記方法がわからなくて困った。
- ・心理学研究法Ⅰ…具体的に自分で筋道を立てていかなければならなかったのに、なにからどうしたらよいのか分からなかった。
- ・心理学研究法Ⅱ…課題の理解の困難なことと、決まった書き方が求められ自分の普段のレポートの書き方と若干異なっていた為。
- ・福祉心理学のレポートを書くのに参考資料が少なく苦労しました。
- ・環境心理学で、なかなか課題の求めている点が理解できずポイントがつかめませんでした。
- ・環境心理学、心理療法…課題のレポート再提出になり、課題の内容、再提出の際の先生のアドバイスが理解できなかった。
- ・心理療法…テキストを読んだだけでは、理解しにくい。一人でする勉強に限界を感じる。
- ・生涯発達心理学2 単位目…成人期の役割の変化、三度目にして評価をもらいました。役割について理解したつもりでしたが、なかなか評価が取れず焦点が合いませんでした。
- ・生涯発達心理学…先生の意図するところが理解できず何度も再提出しなければならず、一年間（途中あきらめたこともあり）かけて単位修得した。
- ・児童青年心理学…先生のアドバイスを読んでも書き方が分からず混乱した。
- ・児童青年心理学4 単位目…課題集のアドバイスのみでは先生の求めていることは読み取れないので、再提出になった際のアドバイスで初めて理解することになる。

問18 「レポート学習」について在学生へのアドバイス（抜粋）

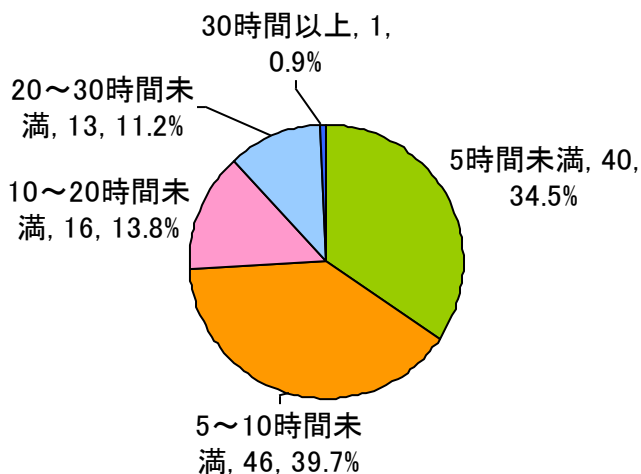
- ・再提出をおそれずとにかく書いて提出すること。
- ・とにかく慣れること。初めは苦しいけれど、その苦しさは最初だけです。車で例えるのであれば、ロー・セカンドギアの次はエンジンは苦労するけれど、サードトップに入れば大丈夫。
- ・レポートが完成しないことに焦りを感じるとおもいますが、じっくりと文献を読むことや考えるということもとても大切なプロセスだと思います。粘り強く取り組んでください。
- ・無理のある学習計画では「レポート学習」は辛いものになり、かといって、計画性がないとあとで苦しくなるもの。
- ・とにかく書いてみる、提出してみる事です。以前、私も100%を目指しすぎてなかなか提出できないでいましたが、かえって心理的負担が増えてしまいなかなか進みませんでした。「だめで元々」くらいの気持ちで書き進めていくとリズムができてきて、学習がスムーズに進行するようになって感じました。
- ・「完全なレポート」を目指していると、なかなか進まないで、苦しくなるので、とにかく書き始めること。何度も書いていくうち、課題を出された先生の言葉が聞こえてくるようになりますよ。そうすると、楽しくなります。
- ・ただテキストや文献を読むだけでは学習は進まないのペンを持ってノートに向かったり、パソコンに向かってひたすら「書く」ことがいちばん大切だと思います。数をこなせば「上達」します。
- ・レポートは書けばいいというものではないと思った。課題では何を問われているのか？を深く考え、自分の持つ「福祉観」をレポートにぶつけていくのがいいと思います。

- ・専門科目は文献でしらべたことも記述し、深く考察することも必要。
- ・とにかく溜めないで前進あるのみ。再提出があってもショックをうけず、先生からのコメントについて理解をして、また提出する。再提出は、また改めて勉強するいいチャンスとする。ポジティブになること。それでなければ、レポートは書いていけない。ショックが大きすぎる為。
- ・どんな内容であってもまず一つ書いてみる。その結果で、レポートをどのように書けばいいかわかってくると思います。数をこなすこと、はじめは何カ月もかかっていたものが三日で書けるようになります。

問19 初めてレポートを提出したのは、入学後どれくらいの時期ですか N=117



問20 科目修了試験の準備に1科目あたりどれくらいの時間をかけたか N=116

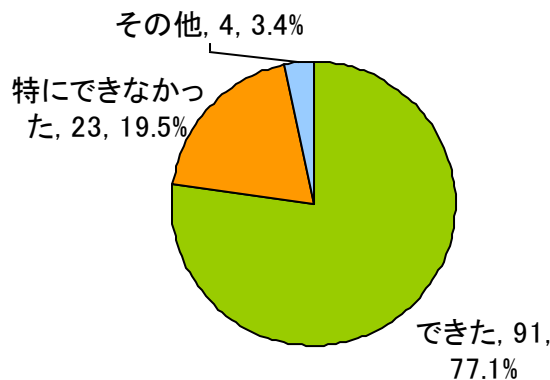


問21 科目修了試験の準備等について在学生へのアドバイス (抜粋)

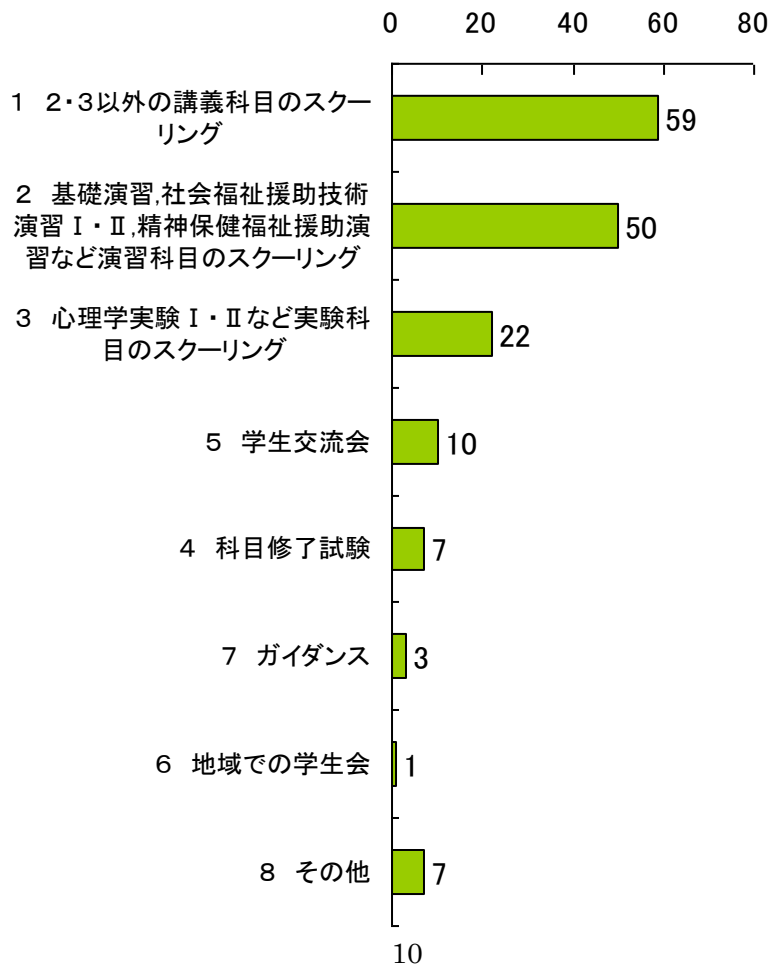
- ・自分の得意な分野から受ける。介護職であれば、高齢者福祉論や介護概論、医療職であれば、保健サービスなど。落ちてても良いので、何回でも受けるようにする。何回か受けているうちに出题傾向が見えてくる。
- ・ポイントアプローチの概念は暗記する。
- ・レポート学習後なるべく早く科目修了試験を受けたほうが良い。時間が空くと、科目修了試験のときに学習した内容を忘れてしまい、学習し直しとなるからである。

- ・レポートの学習がそのまま試験対策になるので、普段の学習をしっかり行うことが大切だと思います。また、試験問題の用紙は試験問題の予想に大変役立つので持ち帰ることを強くおすすめします。
- ・だいたい同じ問題が続く科目があるが、それだけを中心に覚えていくと試験当日この日に限り問題が違う場合がある。こんな時は、頭の中が真っ白になるが白紙で出すわけにはいかず、とにかくこじつけて書くこと。本来は、幅広く勉強したほうがよい。山がはずれると痛い目にあう。ダメージはかなり大きい。
- ・課題レポートを作成するための勉強ではなく、その内容を理解しておくことが必要だと考えます。理解できていれば、どのような問題が出されても少なくともトンチンカンな回答にはならないと思います。

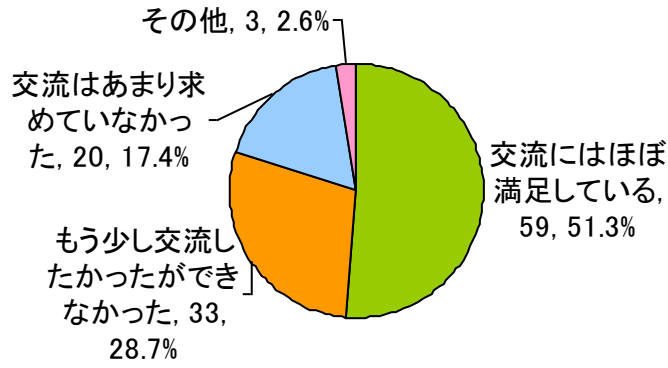
問22 通信教育部で共に学ぶ「学習仲間」はできたか N=118



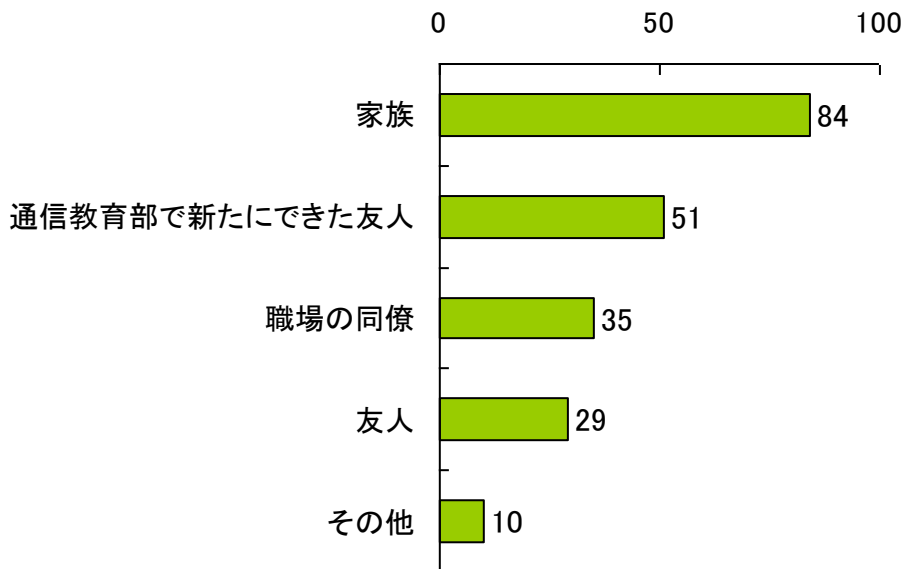
問23 「学習仲間」はどのようなことがきっかけでできたか N=159 (延べ)



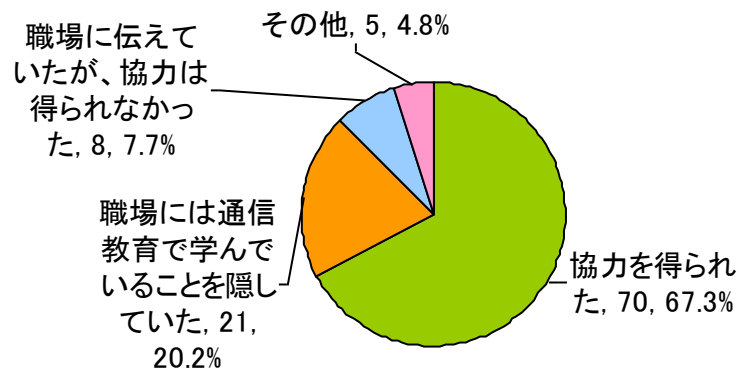
問24 通信教育部で学ぶもの同士の交流について満足できたか N=115



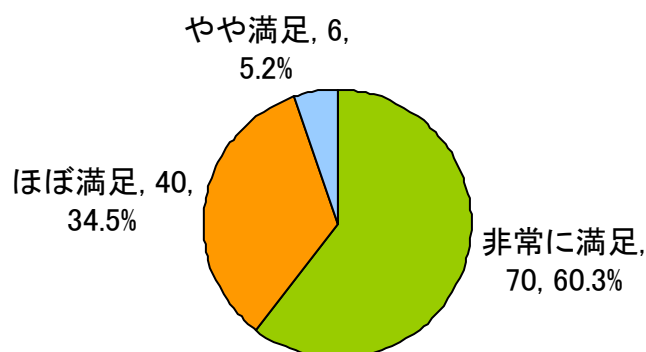
問25 学習を進める上で理解し協力してくれる人はどのような人だったか N=209 (延べ)



問26 通信教育で学ぶことについて職場の協力は得られたか N=104



問27 本学通信教育部で学んで満足できたか N=116



◆本学通信教育部で学んで満足できたか（具体的内容）（抜粋）

- ・会社を定年退職し生涯学習のつもりで学習を始めましたが、進めていくうちに地域福祉のボランティア活動や行政社協などの協働の活動に直結していることがどんどん増えて活用したり、大局的な観点から考え、対応できる様になりました。また、先生・生徒のみなさんの取り組む姿勢・情熱をじかに感じ単なる教養としてではなく成年後見制度を担うなど、福祉の分野で働いていきたいという意欲が呼び起こされた感じです。新しい世界を気づかせてくれた思いです。
- ・予備校的な、全科目をフォローする対策講座がほしい。お金は、多少かかってもよい。終始、講義形式の特講を望みます。
- ・社会の一員でありながら、自分の周りのほんの少しの狭い部分しか知らなかったことを思い知らされました。もちろん、テキストが十分であると考えているわけではなく、それらをふまえて社会を見る姿勢がやしなわれたように思います。
- ・レポート課題やスクーリングの内容が各心理学分野の基本をとらえており、「きちんと学習を行えば基礎的な知識は得られる」ということが伝わってきました。
- ・結構ハードな二年間でしたが、スクーリングで生の先生の講義を聞いて、思いを新しくして仕事ができました。新幹線代や宿泊代金も自分で働いたお金でなんとかやりきりました。充実した二年間で、今からがめっきり寂しくなります。

問28 スクーリングの内容、レポート学習で学んだ内容で印象に残ったこと（抜粋）

- ・スクーリング時、ホワイトボードに記入する際、マーカーが薄く判読できないことが多々ありましたので、授業前に確認していただきたくお願いいたします。
- ・介護概論のスクーリングでグループに分かれてディスカッション形式の講義で、自由な意見交換ができ印象に残った。
- ・障害児の心理で、障害児を理解することで発達する主役はあくまで子ども自身であるから、働きかけ手である親や保護者や教師は脇役として傍らに控えている。「希望を失わずに傍らにいる」という言葉が印象的でした。
- ・白井先生の教育心理学はおもしろかった。「わー、すごい。やらせてやらせてと生徒がぐいついてくるでしょ？そしたらもうこっちは机の下でちっちゃくガッツポーズですよ」というお話が心に残っている。
- ・八巻先生の精神科リハビリテーション学、自らが「レポートが1回で通るのは2割くらいかな」と言っていたので、ものすごく全力で書いたけど、再を覚悟して出した。そしたら、「内容的には申し分ない」とコメントされて1回でパス。とても嬉しかった。
- ・人格心理学のレポートは時間、手間がかかったが、内容があり、充実感が味わえた。

- ・今までで一番良かったスクーリングは、児童福祉論の千葉先生です。札幌で受講しました。虐待を受けている子どもを守れなかった児童相談所時代のお話はとても心に残っています。
- ・社会福祉原論の田中先生の講義はとても感銘を受けました。福祉の根幹を考えることができました。
- ・社会福祉援助技術演習、特講などの川口先生からは、一人ひとりの生き方やその背景を尊重するという姿勢を先生の実践を通して学びました。

問29 通信教育部で学んだ全般的な感想（抜粋）

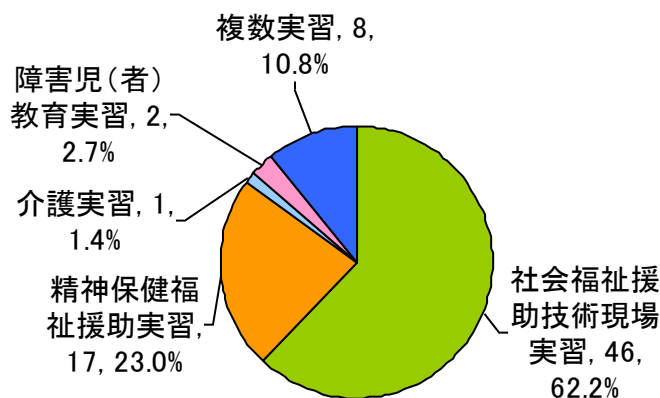
- ・結局、卒業までに五年を要しましたが、卒業証書を手にしたときの達成感で辛かったこと全てが消え去ってしまったかのようです。あきらめずカメの歩みでも進み続けることが大切なのだと実感しています。通信教育部スタッフのみなさんには本当にお世話になり、感謝に耐えません。ありがとうございました。
- ・通信教育部の学生は「自分がなにかを見落としていないか」が常に気になります。（締切りなど）実習を行おうとする学生は特にそうだと思います。通学生が掲示板を見るような感覚で、メールなどで情報をどんどん流してくれると安心します。
- ・スケジュールの組立ては、学生の悩みどころです。個人個人に応じたサンプルスケジュールを立案してあげてほしいです。気付いたら、重要なスクーリングを逃したこともあります。
- ・宮城県外在住の学生の為にも、自分の自由な時間で学習できるオンデマンドスクーリングの科目数を増やしていただきたいと思います。できるだけ、レポート+科目修了試験のみの単位取得という科目を減らし、スクーリングを主とする科目を増やして、先生方の講義に触れる機会を増やしていただきたいと思います。スクーリングにおいては、学生同士で考えることや交流のきっかけ作りのために、グループディスカッションの時間を設けるのもよいのではないかと考えていました。
- ・通信は自分との戦いがとても苦しいものです。途中の過程は投げ出したいと何度も思いましたが、卒業できると通知が来て証書が届いたときはあきらめないで良かったと思いました。そして一番自分自身に自信がついたことが、大きな収穫です。これからもこの自信を前向きにとらえて様々なことにチャレンジする気持ちを忘れずに、また、学ぶことを断続してゆきたいと思います。

実習に関するアンケート結果

【実習について】

調査対象：上記アンケート調査において回答を得た121名のうち実習を行った74名。

問1 実習別受講状況 N=74



※複数実習内訳：

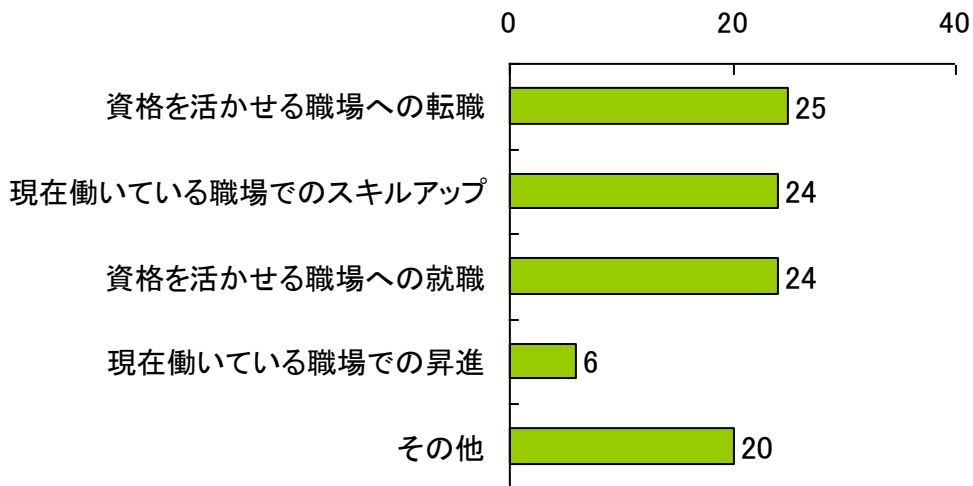
社会福祉援助技術現場実習＋精神保健福祉援助実習（5）

社会福祉援助技術現場実習＋精神保健福祉援助実習＋介護実習＋障害児（者）教育実習（1）

精神保健福祉援助実習＋介護実習（1）

精神保健福祉援助実習＋介護実習（1） 計8人

問2 実習科目を履修した目的 N=99（延べ）



問3 実習中に苦労したこと

1) 苦労した内容（抜粋）

- ・実習と国家試験勉強への集中が困難であった。
- ・実習記録作成（手書きでの作成）
- ・指導していただいた生活相談員が現場にいることが少なかったため、不安が多かった。支援員の指導を受けたほうが良かったのではないかと思った。
- ・特にないが、クライアントと信頼を得ることが難しい。
- ・多くの事例を閲覧させて頂きましたが、あまりに多すぎて混乱してしまいました。
- ・実習先スタッフとのコミュニケーション。
- ・実習記録を書くことに頭を悩ませ、時間がかかった。一ヶ月実習をやり通せるのかという不安が常にあった。
- ・施設利用者との会話
- ・実習指導者になかなか会えなかったこと。自分の考えを否定されたこと。
- ・毎日の実習記録の記入の時間を確保することが難しかった。
- ・仕事との両立が大変だった。レポートを毎日書くのが大変だった。
- ・生活保護について実習させていただいたが、実際は生活保護受給者の中でもなかなか仕事先が見つからなかったり、あるいは逆に仕事先を探すことをためらっている人たちの差が激しかったこと。
- ・今まで経験したことのない空間であったために、場所の空気に慣れるのが大変でした。
- ・実際に現場に行ってみて、事前の学習の不足を実感させられることが多く、困ったことがしばしばありました。また、実習生としてのあり方にも悩むことが多かったです。

- ・老人デイサービスでの実習で社会福祉士の実習というよりも介護福祉士の実習のような場面が多かった。担当者が休みのときは何をしたらいいのか分からず苦労した。
- ・日々の実習記録の記入に時間がかかり、大変だった。自閉症施設だったため、利用者とのコミュニケーションが大変だった。
- ・仕事との併用が大変だった。
- ・仕事と両立させて、職場に理解してもらうようにすることが苦労した。
- ・利用者のニーズ聞き取り。
- ・23日間という実習期間を確保することが一番大変だった。実習に特に大変だったということはない。
- ・指導者の方、施設の職員の方、利用者の方に大変よくしていただいた。
- ・実習記録をどのように書いたらいいか迷い、悩んだ。
- ・孤独だった。一人で頑張らざるを得ない感じ。相談したくても先生にも相談できない。いない。
- ・仕事との両立。
- ・神経を使ったこと。
- ・苦労を苦労とはとらえずに、前向きな関心で取り組んだ。
- ・仕事と実習の両立。
- ・社会福祉の巡回指導の先生に内容や目標が不適と言われ「このままでは単位は取れない」等指摘され不安になった（疲れが倍加した）。
- ・利用者の方々の実態を把握するにつれ、自分がなんとかしてあげたい思いでいっぱいになってしまったときもあるが、実習の限られた時間は難しく、あきらめるという考えではなく、実習生としての接し方、発言の仕方を考えるようになってからスムーズに接することができた。
- ・仕事を休むことが大変だった。県職員の場合は管理職として責任があり、休んで実習することは不可能だった。幸い、再就職先の職場の理解が得られ、昨年に二回に分け実習を終えた。
- ・指導者との関係性。
- ・現場実習をするために、仕事をやめたこと。福祉関係の仕事ではなかったため、一ヶ月間も休職（扱い）できなかった。
- ・教育実習→学校組織に慣れるのが苦労した。
- ・メンバーさんとどのように接していいかわからなかった。
- ・利用者や生徒からの相談であれば、実習であるのだから積極的に受け入れられるが、施設長と実習指導担当者の人間関係上の確執について双方から相談された。
- ・入園している子ども達とのコミュニケーションの取り方。
- ・苦労はなしです。一時保護の子ども達が自分の人生をしっかりと歩いてほしいと願うばかりです。
- ・子どもの施設へ行ったので、関わり方が苦労した。特に虐待を受けた子どもなのでどこまで会話を持って（深く入り込んで）いいかが分からなかった。
- ・毎日の実習記録の考察を書くのに苦労した。
- ・受け入れてもらった施設側の体制が不十分であった。私たちが求めていることが、実習受け入れ先には十分伝わっていないこと。
- ・①記録を書くこと②体調管理③自習を取り入れた時の過ごし方。
- ・勤務先での実習だったため、勤務の延長でしかなかった。
- ・勤務先では有休をとったが、他職員の負担にならないように忙しい期間は勤務したこと。実習先にも伝え休みを勤務日にしたので休みが少なかったです。
- ・介護技術に関しては、あまり苦労していませんが、介護提供する体力の無さにつらさを感じました。

2) どのように克服したか (抜粋)

- ・資料は実習先でくださったので、大変助けられた。
- ・記録用紙を予め何枚かコピーして失敗しても良いように備えた。
- ・養護老人ホームだったので、入所者の人たちが頼りにもなり、なにかと対応できた。
- ・スーパーバイザーの助言。
- ・ジェノグラムなど視覚に働きかける方法で、確認してみてもと思う。実習中、実習先に来て頂いた指導の先生のアドバイスがありました。
- ・実習指導者に相談。仲間、家族に相談。
- ・実習記録がその日に終わらないときは、早朝に起きて仕上げた。実習内容や記録が思うようにいなくても、ある程度妥協し、コンディションを整えることを優先した。
- ・他の職員に聞いた。同じところで実習をした人と話し合った。
- ・帰ってきてからなるべく記入するようにし、次の日の予習も少しずつではあるがやるようにした。
- ・職場、家族の協力。
- ・世帯訪問を通して、どのように相談援助しているのか学ぶことができた。
- ・体験学習と同じ場所であった為に、事前にコミュニケーションをとる話題として戦後～再建までの日本の状況等をビデオにて勉強しました。
- ・巡回指導の先生がいらっしゃる際に分からないこと、疑問に感じたこと、不安なことなどを全て質問、相談し、アドバイスをいただきました。
- ・先生から目的を持って日々実習するようにアドバイスを受けていたので、自分なりのその日の目的を持って実習にのぞんだ。
- ・疑問に思ったことや理解を深めたいことは、実習先の方々にたくさん質問し、教えていただきました。次の日の課題を前日に考えておき、実習ノートに書いておく、そうすることで考えながらその日の課題に取り組み、記録につながる。
- ・現場のSWの動きを見て、技術を習得しました。
- ・積極性。わかっているつもりはやめ、なんでも有難く指導をうける。指導者と意見を交わす。
- ・やる気、元気、本気。
- ・コミュニケーションの仕方を再確認。傾聴、受身、個別化。
- ・家庭、職場で理解を得る。
- ・とにかく書いてみて、実習指導者の方からご指導いただいた。テキストや実習の手引きの記入例を参考に書いてみた。通信の友人にメール等でアドバイスをもらった。
- ・ひたすら耐えた。
- ・体調を崩さないよう気をつけました。記録は実習期間内に書くことができたので、決まった時間になったらこちらから指導者に声をかけ時間確保し自宅ではできるだけ休むようにしました。
- ・通信教育部に電話して確認した（逆に励ましてもらいました）。
- ・どんどんコミュニケーションをとることが大切。学生＝学ぶものという自覚。
- ・困ったことや分からないことはなんでも職員や指導者の方々に話、自分だけの考えだけでは、悪循環になりやすいのでとくかく報告・連絡・相談は徹底して行った。
- ・職場に近い施設に実習をお願いした。なにかあればいつでも仕事に戻れる状況とすることができた。
- ・他の方の意見も聞いてみる。
- ・実習先（社協）の実習指導者や職員の方々が私の社会福祉士になることを応援してくれた。
- ・高校や専門学校時代の恩師へ相談。
- ・積極的に声がけをしていった。

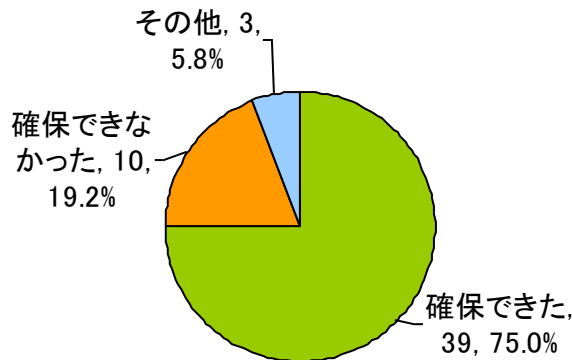
- ・実習に参加している身分であるため、解決策を示すのではなく、双方の言い分の聞き役に徹した。
- ・職員の先生に相談。わからないこと、不安なことなどは確認するようにした。
- ・担当者に聞くことで、個々の子どもの対応方法を聞いたり、施設の方針などをじっくり聞き理解する。(忙しいときは聞きにくいことがあるが、時間があるときに聞く)。また、子どもとは真剣に向き合うようにする。
- ・毎日の課題に対して、文献や資料を読みポイントをまとめたり、職員の方に訪ねたりして、メモをとるなどして克服した。
- ・先生に本を借りた。
- ・積極的に自分から行動した。
- ・①施設・病院によって異なるかもしれないが空き時間に書けるところは書いておく②帰ったらしっかり食べて寝る。休みの日もよく休む③テキストや本を持っておく。
- ・実習が終わってから担当者に質問などをし、知識をつける助けになった。
- ・体力を使わなくてもすむように、少ない力で効果的に介護技術を提供できる様に技術の確認をしました。

3) どのようにすれば苦勞したことを未然に回避できたと思うか (抜粋)

- ・実習事前指導の4分割が先生にうまく伝わってなくて指導を受ける当日まで共有できなくて困っていた。
- ・記録用紙を予め何枚かコピーして失敗しても良いように備えた。
- ・指導をしてもらって職員を頼り過ぎないことだと思った。
- ・スーパーバイザーの助言を理解する。
- ・大学に相談。
- ・実習指導の先生との面談はとても貴重な時間で、面談後利用者との会話がしやすくなった。
- ・自分の話しかけの仕方にもっと工夫が必要かなと思い、反省ノートみたいなものを作るといいと思った。
- ・事前学習として、短時間で実習記録を記入できるように練習しておくべきであったと思う。
- ・職場、家族の協力
- ・事前の学習をもっとたくさんやるが必要だったと思うし、実習の経験者(できれば実習先ごとの)から情報がもらえる機会があったらよかったのと思います。
- ・もう少しいろいろな人の情報を得て、実習先を選択すべきだったと反省することもあったが、実習先でよい経験をさせていただいたので、それも学びだと思う。
- ・もっと積極的に質問をすればよかった。
- ・周囲のサポートがなければ社会人の実習は難しい。
- ・やはり事前での計画を綿密に行うことが大切だと感じた。そこさえきちんと行えば、実習ノートも30分40分で書ける。
- ・ラポール形成。
- ・なるべく早い時期から理解を得られるように努めていく。
- ・実習記録の記入例を実習先種別なども考慮しながら、具体的に手引き等に記載してあれば書きやすかった。見出しを指定する等、記入しやすい記録用紙だと記入しやすかったと思う。
- ・ゼミ形式で事前に担当教員と信頼関係を作っておく。
- ・できるだけ同じリズムで生活するようにする。
- ・無理のない計画。
- ・仕事と実習を休みなくできると考えていましたが、大変でした。休日がとれるよう、もう少し職場や実習先と調整しておけばよかったと思います。
- ・臨機応変も必要だと思う。

- ・これまでの仕事を辞めてでも、ソーシャルワーカーに転進するという覚悟で対処した。
- ・教育実習に関しては自らの準備や実習環境に慣れるしかない。
- ・心理学科系で学んだクライアント中心療法が役に立ったのではないかと思う。ただ「職場」に「実習」に行くのだからある程度の苦労は「勉強」と思わなければならないと思う。
- ・事前の準備も重要（被虐待児の行動など）だが、やはり現場に立ってみないと分からないことも多い。分からないことは相談することが大切だと思う。
- ・もう少し事前学習をするとより一層いい実習になると思う。また、楽しいばかりの実習ではないので、分からなければ分からないので教えてくださいという前向きな姿勢が大切である。
- ・事前学習をもう少し深く準備しておく必要があったと思われる。
- ・事前に実習先に電話し、分からないことは聞きながら、また今後の実習での学習の必要性を直接日程をお聞きして会って話して学習を事前にしてくる。
- ・実習記録は手書きではなくてもいいのではないか。
- ・勤務先でないところ、理解あるところにするべきだった。

問4 実習期間の休暇は確保できたか N=52

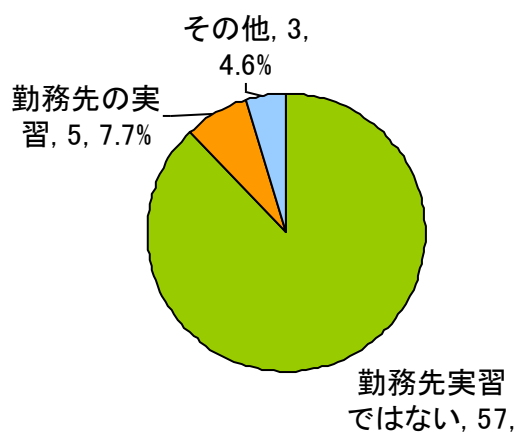


◆実習中の休暇確保の具体的内容（抜粋）

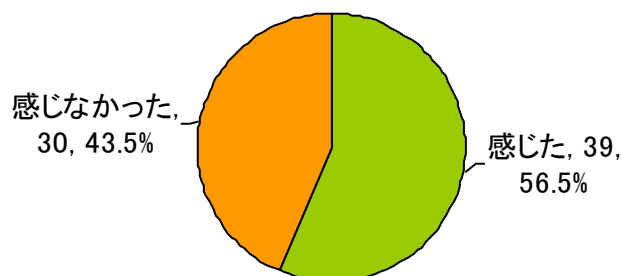
- ・上司に相談し、全て年休で対応した。
- ・有給休暇を使ったが、いつでも職場と連絡がとれるようにしていた。
- ・有給休暇を8割くらい頂けた。
- ・長期間の休暇取得は困難であったので、実習終了後、勤務先で仕事を片付ける日々を送った。
- ・実施期間がいつぐらいになるか、10ヶ月以上前から職場に伝えておいて、対応してもらった。
- ・仕事の夏休み期間を利用したことと、職場の協力を得られたので。
- ・職場の方々の理解。
- ・私は、パート勤務だったのですが、休みを頂きました。
- ・有給休暇を使ったが、全ての実習期間に使えたわけではなく、普段の仕事の休日を実習にあてた。
- ・ためていた有休使用。ただし、まとめて28日間の実習は不可能だったため、四分分割していただいた。
- ・休暇は思うようにとれませんでした。実習期間を二回に分けたので負担は少なかったように思います。
- ・実習は土日が休みでした。土日のどちらか一日職場に行きましたが、休みは確保できていたと思います。
- ・社会福祉…早朝から四時で終了し、夕方から職場へ行った。土日実習した。精神保健福祉…遠かったの

- で、日・月・水を実習先から休みにしてもらい仕事をした。残りの曜日は仕事を休んで実習に専念した。
- ・学校の夏休み期間だった為。
 - ・アルバイト勤務だったので、休暇は取りやすかったが、人手不足の職場だったので、一ヶ月連続して休むことは難しく、実習先の受け入れ態勢とのすり合わせが難しかった。
 - ・2回に分け、仕事先の総会、理事会等重要な時期をはずして計画を組んだ。
 - ・確保できなかったため、体調管理には気をつけた。
 - ・月から金までは実習に出て、土日と祝日は仕事を行った。
 - ・公立学校教員であったため、定期試験期間や夏・冬・春期休業中に有給を使った。
 - ・実習期間は無職で対応。
 - ・義務免除という休暇をいただきました。理解ある施設長と職場に感謝です。
 - ・職場の理解が大きかった（スキルアップなどに全面的に協力体制があるため）普段の休みや有給を使用。
 - ・介護の現場では、断続して一ヶ月休むことはできず、四ヶ月にわたって公休と有休を使い分割することで休みを確保することができた。
 - ・二ヶ月間自分自身ほとんど休日はなかったが、仕事もこなさなければならなかったので仕方なかった。
 - ・仕事が学校なので学校の夏休みを利用した。

問5 勤務先実習 N=65



問6 実習を行っていて事前学習の準備不足を感じたことはあったか N=69



◆「準備不足を感じた」具体的内容（抜粋）

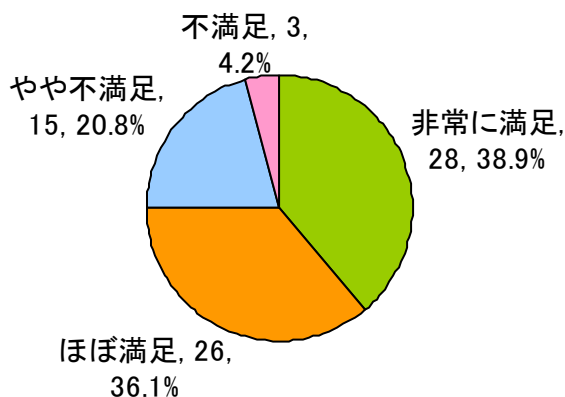
- ・地域包括支援センターでは、高齢者のことはもちろん幅広い知識や様々な事業の理解が必要であったため
- ・地域のことを知っているようで、知らないことが多かった。

- ・実習の内容等に対して受身になりすぎていた。もっと積極的に、自分の学びたい内容についてコーディネートできればよかった。
- ・制度等、きちんと覚えていなかった。
- ・もっと幅広く実習をしたかった。
- ・児童福祉法を読んで臨んだつもりでしたが、理解が不十分だったと感じました。
- ・年金手帳の取得方法や社会資源の無知。
- ・実習においてなにをどこまで学ぶかということをもっと具体的に計画しておく必要があると感じた。
- ・介護保険について（よく理解）知識が浅かった。利用者がみな利用しているので、もっと深く学習していけばよかったと感じた。
- ・質問されたことにすぐに答えることができなかった。
- ・日々、実習内容が違ったため、頭の切り替えが難しかったので、もう少し事前学習をしっかりとしておけばスムーズに頭の切り替えもできたように思うから。
- ・福祉事務所の細やかなデータがなかなか得られず、学習が足りないと感じました。実習事後スクーリングで他の実習生（福祉事務所の）も同じ悩みを抱えていたことが分かりました。
- ・制度のこと、社会資源のことなどいろいろ知らないことが多いと感じた。
- ・法律について、制度について実習記録を作成しているときなどに疑問が湧いてきて知識不足や勉強不足を感じました。
- ・服薬内容（服薬の名前、効用が一致しなかった）。
- ・介護保護制度の把握
- ・障害者支援施設での実習であったが、事前学習を行っていた為、準備不足を感じることはなかった。
- ・精神科病院にも一日、見学体験をさせてもらったが、他職種それぞれの視点や役割を事前に学んでおくべきだったと感じた。
- ・実習を行う施設の概要、それぞれの職種の役割等を理解してから行っていたら、よりよい実習になったのではないかと思った。
- ・現場ではどんな知識が必要か知らなかったため、でも、現場で学ぶことができた。
- ・ボランティアで同種別事業所に行っていたので、少し軽い気持ちで実習を始めてしまい、現場の立場で見るものは同じものでも、立場が変わると違って見えたり、理解していたつもりの用語や知識、技法が全く駆使できなかったため。
- ・教育実習→福祉科が無く社会科で受け入れていただいたため、教材研究が大変でかなりの準備不足を感じた（授業実施時）。
- ・テキストの読み込みが不足した。
- ・レポートやスクーリング等での基礎知識をもとに、発展的・応用的に進めていくのが実習であるため。
- ・もともと興味のある（できれば勤務したいとおもっていた）分野だったので、常に新聞やメディアの情報は意識していた。参考文献も読んでおいた。
- ・子どもと遊びましたが、卓球を練習しておけばよかったと思います。
- ・私の場合は、区社協での実習であったが区社協の業務内容を十分に把握していなかった為、実習計画に区社協で行われている業務を組み入れてしまっていた。
- ・準備不足という点を感じたのは、実習に入ってしまったらからであった。ソーシャルワークの時に少々感じた。
- ・事前訪問を二回行ったこともあり、特に無かった。
- ・不足していた為、少しずつ何を学びたいのか、自分の目的は何か、わからなくなっていた。
- ・実習先の40周年記念誌が勤務先に届いていたものがあったので、2・3年前のものだったが熟読した。父

母の気持ちも理解できたように思えた。

- ・看護職者であるため、介護技術と重なる部分が多々あり、学習不足は感じませんでした。
- ・課題ノートとして、学習し実習先がどのような施設であるかは把握していたつもりでしたが、いまいち具体的に施設がどのような業務を行っているかイメージができていなかったと感じています。

問7 実習先の指導内容（プログラム）に満足できたか N=72



◆具体的理由（抜粋）

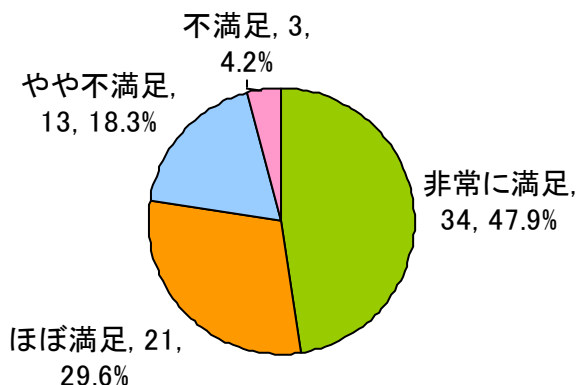
- ・一か月の短い期間だったが、多くの内容で学べるように実習先が配慮していた。
- ・実習生の希望を取り入れてくださり、本当に多くのことを経験させて頂いたため。
- ・担当の方がよく考えてくれたので感謝した。
- ・事前に綿密なスケジュールをたててもらい、打ち合わせをすることができたため、希望通りに行うことができた。
- ・自分でプログラムを考えることが多かったので、必要以上に疲れた。
- ・担当の方が、24日間のきちんとしたプログラムを作成し実習をすすめていただいた。アクシデントがありながらも、臨機応変にプログラムを変更しながらもプログラム通り、もれなく終えられた。
- ・ケアワーカー事務を行ったこと。
- ・実習先の施設長は県の同業施設協会の理事長を勤める方で、施設運営に情熱をかけており、運営自体が勉強になった。また、既に本学の実習生を受け入れており、指導育成にも注力している。
- ・実習施設が行っているサービス全てについて体験させてもらい、実際のサービスを実習できたので満足した。
- ・とても親切で配慮のされたプログラムでした。
- ・市町村社会福祉協議会ということもあり、業務内容が多くて日々違う内容を学びましたが、充実した実習期間となりました。
- ・実習の計画が具体的に組まれていなかった。
- ・自分が計画、自分が実施した状況。
- ・主に生活保護受給者に対する相談援助について実習させていただいたが、受給者に対する相談、支援を促す方法を学ぶことができた。
- ・実習施設内外で可能と思われる業務に参加できるように手配してくださったので、満足としています。
- ・私の要望をあらかじめ実習先に伝えておいたので、学びたいことは概ね学ぶことができました。ただ、スーパービジョンを受ける機会がほとんどなかったことが残念でした。
- ・社会福祉士の実習という意味では私の実習先の選択では学べることは少なかったように思うが、福祉に携

わる人々の人間味あふれる人柄に触れられ私的にはとてもいい実習だったと思う。

- ・短い期間でたくさんの業務を体験、経験させていただき指導をいただきました。また、施設長のご厚意でお忙しい中、実習計画で達成できなかった内容についてもお話を伺うことができとても充実した実習となりました。
- ・大学からのおおよそのスケジュールや、模擬プログラムがないと受け入れ側が大変のようだ。
- ・ほぼ満足ですが、もっと実習、演習を増やして欲しかった。
- ・実習先の指導者の方は、出来る限りのことをしてくれた。施設の職員の方、利用者の方にもできる限り協力をしてくれた。
- ・最も学びたかった個別相談場面での支援のあり方を学ぶ機会は少なかったが、それでも認定調査の為の訪問に同行させていただいたり、ケアマネジメントをやらせていただく等さまざまな学びを得られた。
- ・細やかな予定は立てられず、どこへ配属するのかだけ決まっていただけだった。
- ・授産施設ばかりではなく関連する病院や施設なども研修させてもらい本当に感謝している。
- ・業務全般に入らせていただき、また、時間的配慮も頂き感謝しています。
- ・日々学ぶことがたくさんあり、とても実り多い実習となった。
- ・経験のない私に合わせたプログラムを実施していただきました。
- ・指導者（社会福祉士）に指導していただいた時間が少なく、保育士により指導が主だった。
- ・ほとんど自分の学びたいことを指導してもらえました。
- ・多彩なプログラムを考えていただき、いろいろな方に指導をしていただくことができた。
- ・精神科病院や他法人への派遣実習を組んでいただき、幅広い視点を持って実習させていただくことができた。指導者の方が多忙であったにも関わらず自分がやりたいことをプログラムに反映させてくれ、力不足やより深く勉強しなければならない点に気付くことができた。
- ・実習指導者が一ヶ月間のスケジュール表を作成してくださり、それを実習初日にもらえたので良かった。
- ・予想以上のプログラムに参加することができた。デイケア、訪問看護、医療相談、他機関への見学等。
- ・教育実習…小学部・中学部・肢体部等様々な場面で実習することができたため。社会福祉…生活全般にわたる支援などで利用者の方と深く関わることができた。精神保健…作業について利用者の方の分担等責任ある役割をまかせていただけたため。
- ・自分で考えて行動することが多かったが、その分、子ども達の行動や言動・行為に注目することができたと思う。個人情報のみることができないとのことで、ケース内容や援助計画等は確認できなかったのも、その点は（仕方がないが）残念。
- ・子どもたちと関わる時間が多かったこと。支援計画など細かく拝見させていただき、子どもについてのアドバイスも多クいただけた。相談援助実習は現場きちんと把握するという意味がよく理解できた。
- ・区社協で行われている事業・業務に関しては、見学・参加させていただき、その実際を学ぶことができ満足している。
- ・通学生の方とほぼ同様のプログラムで、社会福祉士とはなにかを教えていただけた。
- ・実習先はケア会議がとても多く、可能な限り参加させていただいた。多職種・多機関とのつながりの大切さを感じた。また、後半ケースを持たせていただき、計画をたてさせていただいたが患者様と面接をする中でその方の強みや持っている力に触れることができ充実していた。
- ・全て介護。そのうえ職員の人数不足で一人でフロア担当など。
- ・知的障害施設であったが、高齢化しており、とてもスタッフの方々のお忙しい勤務状態の中、学ばせていただいたことです。
- ・数多くの体験をさせていただきました。また、多くのスタッフからご指導いただいたことでその方々の介護観にふれることができました。

・私自身が希望するよりも充実した実習をさせていただいたと感じます。実習先とした地域活動支援センターの他にも、就労支援B型など他の種別の施設で実習をさせていただいたり、具体的な内容として講義を行っていただいたり、利用者の方々と接する時間を設けていただいたり、個別支援計画を考えさせていただいたり、様々な内容で実習を行わせていただきました。

問8 実習先の指導者の指導内容に満足できたか N=37

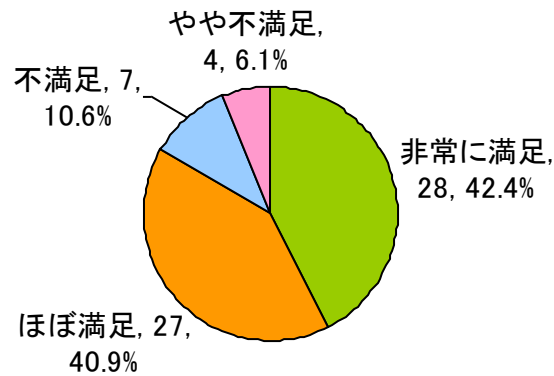


◆具体的理由（抜粋）

- ・ディスカッションをする時間を与えてくれ、疑問をその都度クリアにすることができた。
- ・個人情報保護のため、入所者の生活歴やケアプランなど、何も知ることができなかった。秘密保持は当然として実習しているのにも理解してもらえなくて残念だった。
- ・実習後期になって、日を変更することで弁護士さんのアドバイスの時間への参加をさせていただきました。話を聞いたり、事例を読むだけでは伺い知れない生の対応を一件でも多く実習してもらいたい旨の実習先担当者の思いに触れました。
- ・相談にのってくれ、毎日スーパービジョンの時間を確保してくれたから。
- ・実習先は障害福祉サービス事業所で、直接的障害者と触れ合い、地域生活支援センターで社会福祉士のソーシャルワーク事業に立ち会うことができた。さらに、施設長は業界のリーダー的存在で業界の現状問題など具体的施設を案内、実習させてもらい広い範囲の体験をすることができた。
- ・わからないことを訪ねたりすれば、嫌な顔をせず教えてくださり、優しい方ばかりで満足である。
- ・業務内容によって担当の方が違いましたが、それぞれの担当の方が優しく、そして分かりやすく指導してくださったので、とても感謝しています。
- ・忙しい日は特に指導がなく終る日もあった。
- ・教科書だけでは学ぶことはできない、部分を補うかのように指導してもらうことができた。
- ・介護経験が無かったのですが、可能な限りの体験をさせてもらいました。
- ・指導者の多くが実習生をどう指導したらいいかわからない様子で、スーパービジョンが受けられないことが多かったのですが、こちらから積極的に質問し、疑問に思っていたことなど学びたいと思っていたことは学ぶことができました。
- ・社会福祉士の実習を受け入れるのは初めてのことで指導者にもとまどいがあったようで、その中でも可能な限りの場面設定をしていただいたと思い、感謝をしている。
- ・自閉症を有する方への具体的な支援方法について詳しく丁寧にご指導いただきました。
- ・実習先の指導者の方は、出来る限りのことをしてくれた。
- ・お忙しい中、いつでも質問できるような体制を整えてくださり、ありがたかった。実習記録のコメント等を通して、丁寧にご指導いただいた。

- ・指導者は現場職員にどのような内容で実習させるかきちんと伝えていなかった。現場職員も困っていた。その日、誰に指導を受けたら良いかわからなかった。
- ・各所の指導者は熱心に指導してくれたが、実習担当者は丸投げで精神保健福祉士としての業務内容は全く見えなかった。
- ・同性で同年齢ということもあり、話しやすく尊敬できる方でした。
- ・とてもわかりやすくやさしく指導していただいた。
- ・指導者に指導していただいたことは非常に少なかったが、指導者の助言は自分自身を見つめなおすきっかけとなった。
- ・こちらのペースでやらせていただいたので良かったです。
- ・きめ細かく配慮していただいた。
- ・毎日、30分は振り返りのミーティングを設定していただき、一日一日その都度感じたことを解消でき、記録もスムーズに書くことができた。また、職員と同様に接していただき、意見に対しても丁寧に返答していただき、学習意欲がかき立てられた。
- ・コミュニティソーシャルワーカーとして質問、疑問を一つ一つ説明してくださった。
- ・教育実習…授業（実習）の最後のまとめに変えて、研究事業を実施し、ご指導いただいた。授業の展開方法だけでなく、有効な教材の作り方についてまで学ぶことができた。社会福祉…直接の指導者だけでなく、他の職員の方も様々なアドバイスを下さった。
- ・上記に重なるが、「自分で考える」ことが指導内容でもあったと思う。わからないことには職員全員が対応してくれたので、あまり困難はなかったように思う。
- ・ご多忙にも関わらず、講義やご指導に感謝です。
- ・統括しているかたにも、できる限り指導をいただけたが、その日にいらっしゃる職員の方にも丁寧に指導をいただけた。子どものことを考えて生活支援しているかたもいれば、そうでない方もいてその点では残念だが、質問に嫌がらず答えてくれたりしてくれたことは、様々な知識や技術の理解に繋がっている。
- ・一部訪問同行等させていただいたが、職員の方々が忙しく指導的なところが少なかった。
- ・社会福祉の現場の一つ（福祉現場）を再度考えさせられた。また、社会福祉士とはどのようなことをこの現場でしているか、そしてどのようにソーシャルワークを実施し、また社会資源のあり方や高齢者に対する接し方全ての指導をいただけた。
- ・お忙しい中、毎日のように振り返りを行ってくださり、分からなかったこと疑問などについて教えてくださったり一緒に考えてくださりより学びを深めることがあった。
- ・関わった時間がない。
- ・人として支援者として尊敬できる方であり、また、女性の上司が勤務先にいないのでとてもよかったです。日々担当が違ったのですが、なにもさせてくれない職員もいましたが、自分はこうあるべきではないこと（実習生がきたらこうはさせないこと）が学べたと感じている。
- ・「この業務ではこうすべきだ」という部分はしっかりと伝えていただき、「私はどう思うか」という部分について逐一確認をされたところ、それと照らし合わせながら「社会福祉士はどうあるべきか」という部分にまでヒントをくださったところに満足しています。

問9 巡回指導の内容はどうだったか N=66

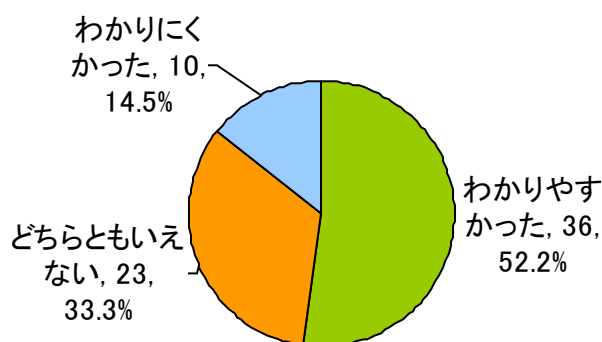


◆具体的理由（抜粋）

- ・質問には丁寧に答えて頂き、次の数日間への指導をして頂いたことが役にたった。
- ・実習期間の中盤くらいに来てほしかった。
- ・指導の先生と知り合いになれてとてもありがたかった。学生の立場をよく理解していただいた。
- ・適切なアドバイスをいただき、ありがとうございました。
- ・実習での苦勞を理解してくれたため。
- ・実習終了の二日前になってようやくこちらからの問い合わせがあっはじめて来ていただいた。できれば中間に来ていただいて、指導していただきたかったと思います。
- ・遠方から来て頂き、感謝しています。不安な状況を汲み取ってくださり心強かったです。
- ・巡回指導によって迷っていたことや悩んでいたことを相談できたのでとてもよかった。
- ・他の学生（他校）と雑談ばかりしたり、自分の自慢話が多くなんのための巡回指導なのか分かりませんでした。何も得るものはなかったです。教授陣は素晴らしいと思っていますが、巡回指導の先生の質は低いと感じます。
- ・偏ってしまいがちな実習への意識を巡回指導の先生のアドバイスにより違った視点で実習に取り組むきっかけとなったので、とても勉強になりました。
- ・悩みなどについて具体的にアドバイスが頂けてよかった。
- ・短時間であったが具体的に説明されていた。
- ・生活保護の実際について、実習で学んできたことを土台に指導してもらうことができた。
- ・社会福祉士として学習しておく必要がある他職種との連携の重要性を感じました。
- ・学習面においてもメンタル面においてもさまざまなアドバイスをしていただき、本当にありがたかったです。スーパービジョンの重要性を改めて実感しました。
- ・実習中の私の悩みを聞いていただき、今私が感じている想いを聞いてくれ、「それだけ理解されているのなら、この実習は成功ですよ」との言葉をいただき、その後の実習は迷いが取れ、積極的に終ることができた。
- ・一回だけの巡回は少ない。
- ・巡回指導という枠にとどまらず、様々な面でサポートしていただいた。
- ・実習記録をじっくりと見てくださったようだ。私が当事者であること、そして勤務先実習であることが巡回指導の先生にとってやや気になることだったように感じた。そうであったなら、実習前にお会いしてお話をさせていただいたほうが良かったのかなと今になって思う。
- ・初対面の人があたった1回学生と会っただけで、何が分かるのか疑問だった。
- ・当たり障りのない指導で全く参考にならなかった。また、一回だけでは不十分すぎる。

- ・指導らしい指導は受けられず、関係のない話（ほとんど自分のこと）で長時間だったので、正直どうかと思った。
- ・(社会福祉実習) 特に何も指導してもらっていません。健康状態のチェックと状況のチェック程度でした。(精神保健福祉実習) こちらもチェック程度かなと思います。実際の内容には あまりふれられなかったと思います。現場にいる方なので、その視点を生かした指導があってもいいと思います。
- ・馴染みの教員に会い、励まされたことが大変嬉しかった。
- ・半日だけでは、あまり意味がないように感じた。私の担当者は、なにかあれば電話してくださいとおっしゃっていただけたが、多忙な中で巡回されているのを考えると遠慮してしまった。中盤と最後に巡回指導があると、より学習を深められるのではないかと感じた。
- ・一日(数時間)のお話だけでは少なかった。もっとお話をうかがいたかったです。
- ・介護教育共に巡回指導なし
- ・社会福祉現場実習・精神保健福祉現場実習ともに、実習途中にアドバイスをくださったり不安なことについて相談していただけたことは非常に心強かった。精神保健福祉現場実習では、事前指導をご担当して下さった先生が巡回指導にいらっしゃったので、しゃべりやすかった。
- ・日々の業務に追われ流されてしまっていた状況に気づき、アドバイスしていただいた。大学側の方に会えたことで、少しほっとすることもできた。
- ・山岸和敬荘 田村先生、穏やかで包み込んでくださるようでなんでも言える雰囲気です安心して実習できました。
- ・話を親身に聞いてくれた。実習中は不安なこともあったが、先生が来たらほっとした。的確なアドバイスや健康には気をつけてという声かけがとても嬉しかった。
- ・実習記録等の記入の仕方に不安があったが、指導していただき、修正していくことができた。
- ・先生に励まされたためによいがんばれたし、良い講義も聞いた。
- ・事前指導の教員と巡回指導の教員が違うため、位相の違いを感じた。
- ・先生が来てくださったときは、すごくほっとしました。作業療法の実習中でしたがその時の思ったことなどをお話できました。
- ・担当者と実習の内容を確認してほしかった。
- ・初めて会う先生でしたので、話しづらかった部分があります。演習の先生だと思っていたのですが、初めて会うのではなく実習前に一度あってお話しするべきではないかと思います。電話もとても緊張しました。
- ・「実習で学ぶべきことを学生が学ぶ為はどう支援するのか」ということをよく考えてくださっているのが、巡回指導のときに伝わってきました。具体的に、「どう学べばいいのか」というところまでアドバイスをいただくことができ、非常に満足しています。

問10 大学への提出書類や諸手続きについて、わかりやすかったか N=59



◆具体的理由（抜粋）

- ・すべて提出期限があり、早めに対応したつもりですが、自分の学ぶ方向性に不可欠な履修科目選択のアドバイスや相談をもっとして学べばよかったと思った。
- ・諸手続きを理解しきれず、大切なものを提出し忘れていたことが何度かあった。友達からの助言で、提出し忘れに気づき、何度か、事務局に救っていただいたことに感謝します。自己責任なので、そこはそれぞれの学生が、問い合わせするなり、相談するなり、対処しなければならないと思います。
- ・いつも丁寧にご指示いただいたので、不安になることはなかった。
- ・資格取得に向けてのプロセスにおいて、現在の自分がその途上のどこにいるのかが、十分理解できなかった点です。自分から積極的に働きかけてお聞きすればよかったと思っていますが、なぜか敷居が高かったです。
- ・実習に関して提出書類はたくさんありましたが、実習に関する手引きや手紙等を見ることで、あまり苦労しなくても理解することができ、本当に助かりました。
- ・WEB等で段取り、確認ができるサイトがあれば便利だと感じました。
- ・文章での説明では分かりにくい、というこちらのほうで解釈を間違えてしまったことが時々ありました。
- ・わからないところがあったとしても、大学に電話すれば親切に対応してくれた。
- ・内容を一読すれば、わかるようになっており、わかりやすかった。
- ・「実習の手引き」、工夫して作ってくださっていると感じたが、重複している部分もあったので、手続きの仕方、流れなどもう少しわかりやすくシンプルに書いてくださるともっと見やすいと思う。
- ・多々不安になることがあった。質問したい担当者が不在な場合が多く締め切りに間に合うか等不安になったりあきらめたこともあった。
- ・頭が痛くなるほどわからなかった。
- ・しっかり読めば十分分かります。
- ・実習で忙しいさなかに私がWithをよく読まなくて、認定心理士に一科目不足していることに気づけなかったのに電話をくださり、どうすればいいか指導してもらって助かりました。
- ・実習先決定までの日程がころころ変わったのが困った。働いていると電話一本かけるのさえ大変で、気もめる。大勢の方の処理をしなければならない大変さも分かるが、急な電話指示や書類準備はなるべく避けて欲しかった。
- ・Withにくわしく書かれてあるのでよかったです。Withの表紙の色など、毎回送られてくるのが楽しみでした。
- ・ガイダンスが限られた時間だったので、演習のプログラムを統一してもらえたら良かった。家にもどって結局電話して聞き直すことが多かった。
- ・Withを読んで、それでも不明なところはメールで対応していただいたのでわかりやすかったです。
- ・実習に関する手引書を見れば大体の事はわかったが、現在、新カリキュラムと旧カリキュラムのものが混在している状態と思われるので、インフォメーションを強化するとより分かりやすくなるものと思われる。
- ・特に問題なかったと思います。
- ・分からなければ聞けば教えていただけるので、助かりました。むしろ、理解力が低下しておりすみませんでした。
- ・手引きやレポート課題集にハガキがついているものもあり、その点は分かりにくかった。
- ・最初は分かりにくかったが、時間がたつにつれてWith等わかりやすく感じた。
- ・実習書類の提出時期がわかりにくかった。
- ・詳しく説明をしてくれて、対応も早くて、やさしくて、他大学はわかりませんが福祉大の通信教育は素晴

らしいと思います。

- ・演習や実習事前指導がとてもよかったです。
- ・何度も読み返すと理解できたが、その時理解しても忘れたり、何度も電話して確認した。
- ・よく読んで対応すれば何ら問題はないのですが、きちんと読まなかったため、多少困ったことが生じました。
- ・提出する書類の締め切りが分かりにくかったように感じます。

問11 実習を開始する前と後とで自身に変わったことはあったか（抜粋）

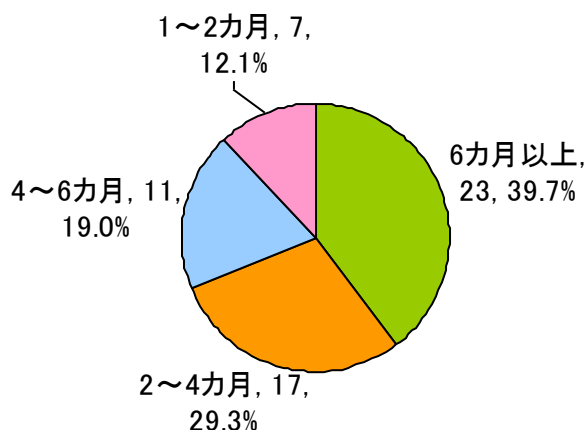
- ・社会福祉士に対する考え、地域福祉などより現実味を帯び、責任を重く感じるがあった。
- ・今の仕事について、20年がたちいろいろと知っているつもりでいたが、まだまだ学ぶことがたくさんあることに気付いた。また、20歳以上も仕事をしていると「向かうところ敵なし」という風に思っていたが、この年齢になって「実習生」という身分で教を乞う機会を与えられ、新人職員の気持ちを改めて理解して謙虚になれた。
- ・教科書などをよんでいても場合を想像しやすくなった。素直に、こういう仕事をしてみたいと思えるようになった。
- ・自分の気付かなかった欠点に気付いた。
- ・視野を広げることができ、実習して良かった。開始する前は、「出来ることなら、実習したくない」と思っていたが、後になっていい経験となった。
- ・テキストを読み、スクーリングで話を聞き、ビデオを見せていただいたものが、実習でより理解できました。まさに、「百聞は一見にしかず」を実感しました。地域の子どもたちを見る眼も変わったように感じています。
- ・精神科ケアの役割（社会的入院の善悪について）。
- ・実習して初めて気づき、理解できたことが数多くあり、障害者福祉サービス事業所のサービス内容と自立支援についての国の対策にいろいろな問題を持つようになった。
- ・自己覚知ということの重要性を痛感した。
- ・利用者尊重、個別化に対する考え方が明確となり、職場でも役立つようにしている。
- ・福祉の現場を体験でき、色々な人の人生模様、生き方を垣間見ることによって人に対する見方が変わったように思います。
- ・市町村社会福祉協議会で実習をさせていただいたことで、社会福祉協議会の役割を実習前はほとんど知りませんでしたが、実習後は、地域福祉において欠かせない場所であることを知りました。そして、地域住民同士の協力の大切さを学び、自分の意識の変化にもつながったと思います。
- ・障害に対しての考え方が変わった。
- ・相談援助という言葉を中心に、教科書を通して一通り学んだが、実習後は相談援助をするということはひとりでその人のために、援助を展開していくのではなく、チームでやっていくということを学んだ。
- ・実際の現実を体験することにより、社会福祉の専門職のありかたについて実践的に考察することが可能となりました。
- ・福祉事務所で実習したことで、福祉全体についての視野がより広いものになりました。また、福祉事務所と連携しているさまざまな機関の現場を知ったことでネットワークの重要性を理解し、社会福祉の理解が深まったとともに、多角的に物事をとらえることができるようになりました。
- ・頭で考えていることと実際に体験することには大きな違いがあり、自分の中での偏見などで世界をいかに狭くしていたかを自覚することができた。
- ・「利用者の利益の最優先」の視点や、ひとりの人間としての価値や権利について実際に見て聞いてやって

- みて考えを深めることができるようになりました。
- ・精神障害者への印象が変わりました。
 - ・SWの見方で、見る世界はまた違い勉強になった。
 - ・利用者理解の必要と難しさ。
 - ・権利擁護についての意識が高くなった。
 - ・「実習」を通して自分自身の考え方や行動の傾向などを見つめることができたことで、実習後、仕事をする上でも自分を客観的に捉えながら支援することが少しずつではあるができるようになってきた。勤務先実習であったが、「実習生」として学ぶことで改めて気付くこと、わかっていたつもりでわかっていたこと等を知り、実習後の仕事にも役立った。
 - ・これまで自分の行動は主観的であり、何故そのような行動をしたのかについて考えることは無かった。しかし、実習後は客観的に捉えられるようになった。
 - ・より利用者の立場で物事が考えられるようになったような気がする。また、自分の物差しで図るのではなく、けっこうなんでも受け入れる。ことができるようになった気がする。
 - ・教員を目指したいという気持ちが強くなった。
 - ・現場を体験したことで、自分のなかにも障害者に対する偏見があったことに気付かされました。こうした自分を知ったことで、偏見や差別を根絶することだけでなく、こうした自分を受け止め障害を理解してもらうことも大切なのではないかと感じました。
 - ・「受容」と「よりそう」ということの意味を知りました。精神障害者への偏見が全くなくなり偏見のある社会の方を早急に対処すべきという地域の課題に気づきました。
 - ・現場で仕事をしていく決意ができた。
 - ・我々が暮らしやすい生活は障害者にとっても暮らしやすい生活であり、障害者にとっても暮らしやすい生活は我々にとっても暮らしやすい生活である。障害の有無に限らず、人が人としてより良い生活していくことに必要な知識を多いに吸収できた。
 - ・ソーシャルワーカーになりたいと実習後さらに気持ちが高まった。
 - ・①実習をできたことがとても貴重な学習時間だった。②実習校から依頼があり、来年度の訪問介護員養成コースの非常勤講師をやらせていただくことになった。実習後、数ヶ月後に依頼の電話があったときには、とても嬉しかった。
 - ・スクーリングやレポート作成時に学んだことが、実際の現場で実習することで具体化されたように思う。この両者を有機的に統合されていくことが今後の課題になると考える。
 - ・児童養護施設での生活の現実が少し見えたと感じた。子どもの生活の全てに支援が必要なんだ、ということを理解できた。特に食事は重要だと感じた。
 - ・人生に寄りそわせていただく仕事をすることで、利用者一人ひとり「人生」について考えるようになりました。また同時に自分の人生についても考えるようになりました。まず、自分を考える・知る（自己覚知）は必須だと感じます。
 - ・養護施設に入っている子どもの笑顔を見て、可哀想とばかり思っではいけないと思った。心の中は虐待などで傷ついて消えないけれど、前向きに生きようとしている。施設は通過点であるが、肉親でなくても育ち方によって子どもがのびのびと自分らしさをだせる場だと思った。児童施設の見方が変わった。
 - ・社会福祉の視野が広がり、現在の介護職に対して以前より前向きに取り組めるようになった。
 - ・「実習」を通し福祉とはなにかということだけでなく、実際の現場を見て自分の学習の不足を感じたし、再度人とはどのように人に接すべきかを考えさせられた。
 - ・改めて施設の現実と課題を知ることができた。
 - ・ワーカーが何でも一人で仕事するのではなく多職種・多機関と連携を持って患者様を支援していくという

こと。ワーカーが一人で何でもやろうとすると万能感を抱いてしまうことがある。患者様に対してどのようなスタンスで支援をしていくしか考えなければいけない。

- ・精神障害者と地域で暮らす上でハードルが低くなった。
- ・「自己覚知」です。他施設で学んだことにより、自分のことを改めて考えることができました。また、支援者としてこうあるべきと考えさせられました。自分にはなにができるか、どう支援するべきか、とても勉強になりました。
- ・高齢者介護のあり方について。自己決定を尊重することや、その人そのものに尊重の念を持ってかかわることの実際を知りました。
- ・実習前の自分の実習テーマの「社会復帰とは」は、その人その人にとっての社会復帰があつていいのだということがわかりました。社会復帰は決して同じものではなくて「個別化」していくことの大切さを学びました。
- ・一番変わった点は、テキストを読んだときの理解度です。いままでは、具体的にテキストの事柄がイメージできていなかったため、覚えるのに苦労していたが、少しだけ「現場」を見せていただいたことにより、よりイメージしやすくなり、学習を進めやすくなりました。

問 12 国家試験・教員採用試験の受験勉強にいつごろから取り組んだか N=58



◆受験勉強の具体的内容（抜粋）

- ・国家試験勉強は3年生の時からゆっくりやった方がよいと思った。
- ・私自身としては、準備不足でした。ただ、職場の経験やスクーリングの内容をよく聞いていたので、試験をやりながら、解いていったという感じです。事例問題が多かったので、運が良かったと思っています。
- ・仕事に追われてスタートが遅かった。気ばかりあせり頭に入らない状態が続いた。参考書は、自分にあった物を捜せなかった。
- ・テキストと過去問題および模擬試験の受験。大学で行った、受験対策講座への参加。
- ・合格テキストの精読、過去問、模擬問題を繰り返し勉強した。
- ・時間をはかり、過去問や模擬試験問題を何度も解いた。ワークブックをノート代わりにしてたくさん書き込んでいった。大学内外の受験対策講座を受けた。
- ・過去問や模擬問題を中心に勉強して、間違った問題についてはテキストや資料集で調べたり、ノート作りをするようにした。
- ・対策授業に参加したり、テキストを読んで内容を理解するとともに要点を押さえた。
- ・テキスト、問題集を積極的に活用しました。
- ・過去問集（一問一答式の）をひたすら解きました。そして時々、過去の国試問題に挑戦し、実力を試しま

- した。ストップウォッチを使って解答するスピードを早くしていく練習した。
- ・過去問、模擬問題集を毎日最低でも 21 問解くことを目標として勉強した。加えて、けあサポの HP で毎日出されている一問一答や、やまだ塾の HP にある問題を時間のあるときに解いた。とにかく毎日問題を解くことを心がけた。
 - ・国家試験対策には出席したが、仕事が忙しく本格的に勉強できたのが 12 月末でした。ひたすら過去問と解説を読み、ワークブックを読み暗記しました。
 - ・本格的に受験勉強を始められたのは、三週間前であった。大学のレポート提出などの為、その時期となってしまう。過去問を中心に勉強し、合格点をとることができた。
 - ・過去問三年分を 4・5 回解いた。模試 3 回受け 3・4 回復習。なるべく多く対策講座に出席した。ワークブックで勉強。PSW 暗記ブックで暗記。ポイントを自分なりにノートにメモした。
 - ・過去問に取り組み、わからないところ間違ったところ等調べて暗記。何度も繰り返した。六冊くらいの問題集を各四回実施。
 - ・参考書にとりくんだり、模試を受け、自らの実力をはかって少しずつ目標をあげていった。
 - ・中央法規のワークブックと過去問で勉強し、模試で実力を確認。
 - ・過去問を中心にスクーリングで指導された内容で取り組みましたが、実習や研究で時間を取られる場合はマーカーで年度ごとに色分けし、ワークブックに印をつけていくやり方では非効率的で間に合わないと思いました。過去問に絞った横断学習に切り替えました。わきめもふらず六割目標の短期間の安上がり合格でした。
 - ・何度も勉強に取り組もうとおもったのですが、レポート提出や科目修了試験が思うように進まず、社福士の勉強はしていません。
 - ・過去問題を二年分解答、暗記ブックの活用、国試対策スクーリング時の配布資料の活用、友人と予想問題の出し合い。実際の時間配分に沿って予想問題を解答、暗記ノートの作成。
 - ・五月の特講社会福祉士国家試験対策での勉強のやり方のおり（過去問三年分三回繰り返し→ワークブック色づけ→模擬試験）にやったら、一回で合格できました。
 - ・教科書で読む、過去問を解く、ワークブックで暗記、模擬問題は多く解く、繰り返し。
 - ・過去問を解くことがベースとなった。教科書の内容構成が変わったので、教科書は参考にする程度にとどめておいた。
 - ・秋に模試は受けましたが、卒業のためのレポートや実習（12 月上旬まで）があり、まともに勉強できたのは二週間でした。模擬問、過去問を解きました。

問 13 「実習」について在学生へのアドバイス、大学に対する要望（抜粋）

- ・実習時自分一人で、学ぶことは不安もあるが、学ぶ機会のある人は、しっかり実習してみえるものもあるので、ためになるからどんどん受けてほしいと思った。
- ・実習は、慣れない現場に毎日通うことになり、精神的ストレスが多くあります。ただ、このように違う環境で現場を見れるチャンスは一度就職してしまうとなかなかありません。それなので、実習中に過ごす時間を日々大切に、貪欲な気持ちで学習してほしいと思う。
- ・実習中は気疲れ等で疲労感が、通常の職場での勤務よりあります。
- ・施設を選ぶことも大切であるが、指導者がどのような人なのか、情報収集できるならしたほうがよい。指導者によって、大きく左右される。
- ・単なるスキルアップで大学を卒業するより、何かを得る為の大学を卒業してほしい。
- ・諦めないこと。夢は叶います。
- ・健康管理が大事だと思います。実習前は特に不安が大きいと思いますが、自信を持ってください。実習で

- しか得られない経験がたくさんあると思います。震災・津波被害などで持続していくことが難しい方も少なくないと思いますが、あきらめずに頑張ってください。
- ・自分のペースで学習を進め、何年かかっても卒業することで得られるものがあると思うので、卒業まで頑張ってください。
 - ・一年間はあっという間なので、計画的に学習しないと結局はお金の無駄になると実感しました。コツコツと地道に頑張れば、確実にゴールは見えてくると思います。
 - ・今後実習を行う在学生へのメッセージとして、実習の準備や実習に関するスクーリングも大変だと思いますが、友人同士で励まし合って頑張ってください。また、実習中は実習記録の記入や慣れない実習で体調も崩しやすいと思いますが、体調管理をしっかり行い、休まないで済むように実習を頑張ってください。
 - ・特にありませんが自分から積極的に取り組む考えが重要と考えます。
 - ・今後、規制により社会福祉士の現場実習の選択場所は限られてくるとと思いますが、その現場で専門職としてどのような仕事をしていきたいのかといった事を事前にイメージしておく必要性を感じました。未経験現場の場合、イメージしにくいと思いますが、それは後ほどの改善資料にもなると思います。また、実習現場別の最重要課題が一つ教育者側からあれば実習の考察に深みを増すことが可能になると感じました。
 - ・実習で得られたことの多さ、すばらしさは言葉では表現できません。実習を行うことのできる状況にある方は、是非挑戦してほしいです。よりよい実習にするためには、事前の学習は不可欠です。事前に課題に取り組むだけでなく、積極的に文献やインターネット、実習先の見学やボランティア活動などを通して情報を集めてから実習に臨むことをおすすめします。
 - ・実習計画を細かく具体的な目標を立てておき、それに基づき一日一日の記録（目標）を立てる。一日一日の課題は前日に実習ノートに書いておき明確化させることで、その日にやるべきことや教えていただくこと、記録することがスムーズになると思います。
 - ・実習指導者は精神保健福祉士の方をお願いして欲しかったです。
 - ・とにかくあきらめないこと!!人それぞれ事情が違うと思うので、それぞれのやり方があると思うが、私の場合は休んでしまうとなまけぐせがでてしまうので、早め早めに単位を取るようにし受験勉強に力をいれるようにした。
 - ・目的と誠意を持って一生懸命努力すれば、よいものがたくさん得られると思います。
 - ・せっかくの機会なのですんで職員に声をかけていったほうがいいと思います。反応が悪かったとしても、誠意を持って接していればころよく応えてくれるようになると思います。
 - ・私の実習先はたいへん熱心に指導をしてくださり、大変勉強になりました。せっかくご縁ができていますから、大学も情報を共有し、パイプを太くしておいて、これからも学生を受け入れていただけたらいいと思います。
 - ・教科書と授業で学ぶことと、実際の現場で学ぶことはまるで違います。実習では、支援に対する考え方一つとっても十人十色です。とまどうことも多々あります。福祉職は感情労働といわれますが、自分の適性、不適性を考えるときにどういった人間関係を築いているのかを意識しながら実習されることをお勧めします。
 - ・東日本大震災により、楽しみにしていた学位記出席も中止となってしまい残念でした。被災してしまった通信教育部の在校生の方々の卒業や国家試験に向けて、再び学ぶ気持ちになってくださるよう大学が毎回Withで呼びかけたり、個別にお手紙を出すなどして、励まし続けることが大切だと思います。
 - ・教育実習に関しては、実習先の確保に苦労しました。卒業校をはじめ、相談できる人脈があれば早めに動いておいたほうがいいと思います。学校組織は、予想以上に規律を重んじるころだと感じました。教育実習生受け入れも各年度の年度計画に沿って実施されるようです。早め早め野対応が必要だと感じました。

- ・在生のかたへ。実習を円滑に行う為の基盤はやはりレポート作成やスクーリング受講で学んだ知識や技能です。したがって、通信教育部での日々の学習、ご協力は極めて重要となります。ただし、実習に当たっては実習先のご指導に従いましょう。一見すると、通信教育部で学んだ原理・原則と解離しているように思えるアプローチもあるとは思いますが、実習先にはそれぞれの実習先での工夫・応用があり、原理・原則の用い方はそれぞれです。原理・原則を現場ではいかに具体化しているかを学ばせていただくという姿勢で実習にのぞむとよいと思います。様々な視点でご支援いただきありがとうございます。ありがとうございました。
- ・実習先で職員の方々や利用者の方々とコミュニケーションを取りたいと思うのなら、やはり大切なのは「あいさつ」だと思います。あいさつと、「はい」という返事。基本的なことですが、これが「信頼」への第一歩だと思います。利用者の方々は、少し距離をとりながら少しずつ理解していくようにするとよいのではないのでしょうか。期間が決まっている「実習生」なので、どこまで入るべきか、入ってはいけないのか、考えながら行動することも大切だと思います。職員の方々より年上の実習生となる場合もあると思います（私もそうでしたが）が、年齢は関係ありません。自分は教えてもらう立場だということを忘れてはならないと思います。利用者さんからもおおいに学べます。あと、自己管理は重要です。私は持病があるのでここはかなり意識しました。
- ・くじけそうになったら、初心を思い出してください。自分できめたことはやりぬくしかありません。つらくても、頑張っていればゴールします。
- ・様々な実習施設があると思いますが、常に学ぶ姿勢を忘れないこと。そのために事前学習を行い各種別の理解や関わっている法制度を学んでおいたほうがいい。自分が実習が終っても、同じ学校から後輩が実習に行くこともあるので、後輩の為、学校の看板を背負っていることを忘れず、実習に取り組むことも大切である。
- ・事前指導をしっかりと行い準備しておくといいと思います。提案・要望はとくにありません。
- ・実習は最初から福祉の現場にいたことのない人は不安があると思いますが、実習先の方々に実習前からお時間をいただき学習されると自分自身でも少し実習に対しての気持ちがおちつくと思います。また少しでも分からないことは実習担当の先生にお聞きすれば解決します。
- ・実習は「大丈夫かな」と不安な気持ちだけを抱えて行くのではなく、今までスクーリングやレポートをこなしてこられたという小さな自信と「学ばせていただく」という謙虚な気持ちを持っていくといいと思う。あとは日々「その日の疲れはその日のうちに」解消し、体調を整えていくといいと思う。
- ・人生の中で学ぶことはとても大切です。特に、人と接する仕事は日々学ぶことがあります。福祉の仕事は実践が大事になってきます。現場で学ぶことはたくさんあり、また、利用者の方から学ぶこと、職員の方から学ぶことが今後の自分に生かせるのだと思いました。当事者の方が、実習されることがありますが、中止になる場合があります。当事者の方が学ぶことは、とてもいいことだと思いますが、実際に資格を取得し働くことになっても続けることは難しいのが現実です。身体障害者のかたと違って難しいですね。去年の学生掲示板を荒らした女性も障害だと感じました。学ぶことは平等でいいと思います。
- ・実習生として、主体性を持って実習することが大切だと思います。対人援助を行うものとして、コミュニケーション能力も求められますので、自ら話題作りを工夫するなど努力する必要があります。テレビ、新聞などから話題となりうるものを探したり、対象者が好む歌を知ったりしました。

◎これから実習を目指す方は、是非、以上を参考にして学習や準備を進めてください。

いただいたご意見のうち必要なものは今後の学習支援・実習のあり方を検討・改善する材料とさせていただきます。ご協力に御礼申し上げますとともに、卒業生皆様の方々の益々のご活躍・ご健闘を祈念いたします。